

群馬県スポーツ推進計画

(令和3年度～令和7年度)

令和3年3月

群馬県

「群馬県スポーツ推進計画」の策定に当たって



少子・高齢化の進展により、今後も人口の減少が見込まれる中で、個人の価値観の多様化や地域コミュニティの機能の低下、ICT(情報通信技術)の急速な進歩、幅広い分野でのグローバル化など、社会は大きく変化しています。そして、こうした社会の変化とともに、私たちが直面している新型コロナウイルス感染症により、「ニューノーマル(新常態)」社会の構築が求められています。

このような状況の中、本県では、「新・群馬県総合計画(ビジョン)」を策定し、「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」を20年後の目指す姿として描き、「一人ひとりの幸福」、「社会全体の幸福」、「将来世代の幸福」の3つの幸福の実現に向けて、県政を推進していくこととしています。

あわせて、スポーツ分野においても、ビジョンで描く20年後の将来を見据え、県民誰もがスポーツによって、自己実現を図り、健康で活力ある群馬県を創生することを基本理念とする、新たな「群馬県スポーツ推進計画」を策定しました。

この計画では「スポーツによる健康増進・生きがいづくり」、「スポーツによる共生社会の推進」、「スポーツによる活力ある地域創生」、「スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成」の4つを政策目標として掲げ、本県のスポーツを総合的に推進していきます。そして、世界共通の目標となっている、誰一人取り残さない社会を実現するというSDGs(持続可能な開発目標)の理念に近づくべく、スポーツ施策を展開していきたいと考えています。

県民のスポーツ活動の促進やアスリートの競技力向上対策など、これまでも取り組んできた施策の充実・向上を図るほか、データやデジタル技術を活用した選手育成やスポーツ体験など、DX(デジタルトランスフォーメーション)による新たな価値の創造も重要です。また、「スポーツによって収益を上げ、その収益をスポーツに再投資する」という好循環を生み出すことで、スポーツの世界をさらに発展させるスポーツの成長産業化も目指します。

本計画の推進にあたっては、市町村やスポーツ関係団体をはじめ、企業などとも連携し、県民の皆様の参画を得て「官民共創」によって取り組んでいきたいと考えておりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

令和3年3月

群馬県知事 山本 一太

目 次

第1章 計画策定の基本的な考え方 -----	1
1 計画策定の趣旨 -----	1
2 計画の期間 -----	1
3 スポーツの定義 -----	1
4 計画の位置付け -----	2
第2章 群馬県のスポーツを取り巻く社会課題 -----	3
1 人口減少・少子高齢化の進展 -----	3
2 共生社会実現への障壁 -----	4
3 地域コミュニティの機能の低下 -----	4
4 アスリートの更なる育成と輩出 -----	5
5 新型コロナウイルス感染症の影響 -----	5
第3章 群馬県が目指す姿 -----	6
1 基本理念 -----	6
2 政策目標 -----	6
3 DX 展開による新たな価値の創造 -----	7
4 スポーツの成長産業化 -----	8
5 スポーツ推進計画と新・群馬県総合計画(ビジョン)の関係 -----	9
6 計画体系図 -----	11
7 政策目標別の取組 -----	12
I スポーツによる健康増進・生きがいづくり -----	12
II スポーツによる共生社会の推進 -----	21
III スポーツによる活力ある地域創生 -----	27
IV スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成 -----	35
8 二巡目国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会に向けて -----	39

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

本県では、昭和 53 年に「スポーツ県群馬」宣言を行い、昭和 54 年から6次にわたるスポーツ振興の計画により、各種施策を推進してきました。平成 25 年にはスポーツの振興に関する基本理念やスポーツ環境の整備等に関して基本となる事項を定めた「群馬県スポーツ振興条例」が制定され、平成 28 年には、同条例の考え方を踏まえた現行の「群馬県スポーツ推進計画」を策定しました。同計画では「県民が生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境を整備し、明るく豊かな活力ある『スポーツ県群馬』を実現する」を基本理念として、総合的なスポーツ振興施策を実施してきました。

この間、国においては平成 29 年3月に「第2期スポーツ基本計画」が策定され、その中で地方公共団体には、地域特性や現場のニーズに応じたスポーツ施策を実施し、スポーツによる健康増進や共生社会づくり、経済・地域の活性化など、スポーツを通じて活力ある社会づくりに取り組むことが期待されています。

また、令和元年にはアジアで初となるラグビーワールドカップが開催され、国中が感動と興奮に包まれたほか、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、スポーツへの関心がますます高まっていくことが期待されています。一方で、少子高齢化の進展や地域コミュニティの機能の低下などの社会問題が深刻化しているなか、全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症により、スポーツだけでなく、社会・経済活動全体が重大な影響を受けています。

こうした社会やスポーツを取り巻く状況の変化を踏まえ、本県において、「スポーツの力でこれからの社会を豊かにする」という観点から、新たな群馬県スポーツ推進計画を策定しました。

2 計画の期間

令和3年度(2021 年度)から令和7年度(2025 年度)までの5年間とします。

3 スポーツの定義

スポーツ基本法では、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得等のために行われる運動競技その他の身体活動全般をスポーツとしています。

本計画では、スポーツ基本法の考え方を踏まえ、ルールに基づいて他者と競い合うスポーツ、登山やラフティング等の自然に親しむアウトドアスポーツ、健康づくりのためにジムで行うフィットネス、勝敗にこだわらないレクリエーションスポーツ、一人で手軽にできる散歩や軽い体操等、高いレベルの競技から楽しみながら身体を動かすことまでを広くスポーツとして捉えます。

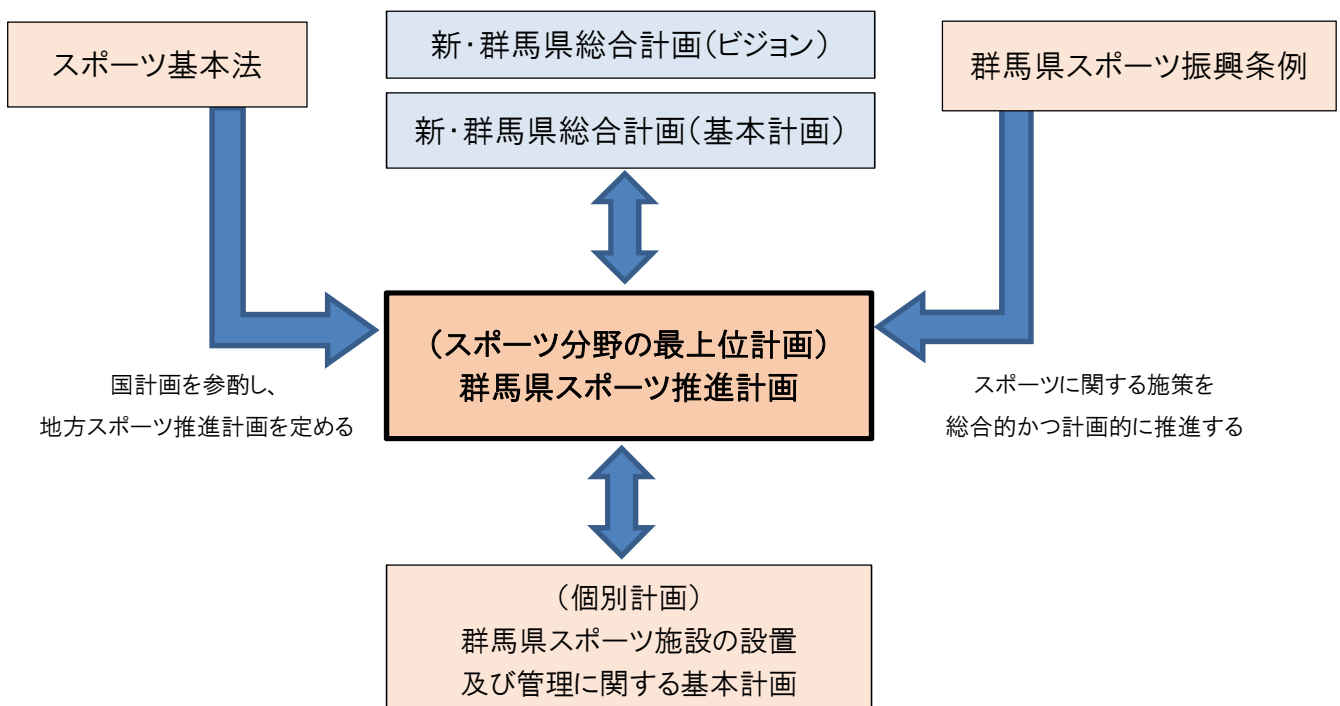
4 計画の位置付け

本計画は、新・群馬県総合計画に基づくスポーツ分野における最上位計画であり、スポーツ基本法第10条第1項に定める地方スポーツ推進計画として位置付けています。

◎「群馬県スポーツ推進計画」と関連計画等

	年度	平成											令和								
		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7
国	法律	スポーツ振興法 (S36～)					スポーツ基本法														
	計画	スポーツ振興基本計画					スポーツ基本計画					第2期スポーツ基本計画					第3期スポーツ基本計画				
県	総合計画	21世紀のプラン					はばたけ群馬プラン					はばたけ群馬プラン II					新・群馬県総合計画				
	スポーツ分野計画	ぐんまスポーツプラン改訂版					ぐんまスポーツプラン2011					群馬県スポーツ推進計画					群馬県スポーツ推進計画 (令和3年度～令和7年度)				
												群馬県スポーツ施設の設置及び 管理に関する基本計画					群馬県スポーツ施設の設置及び管理に 関する基本計画(令和3年度～令和7年度)				

◎計画体系図



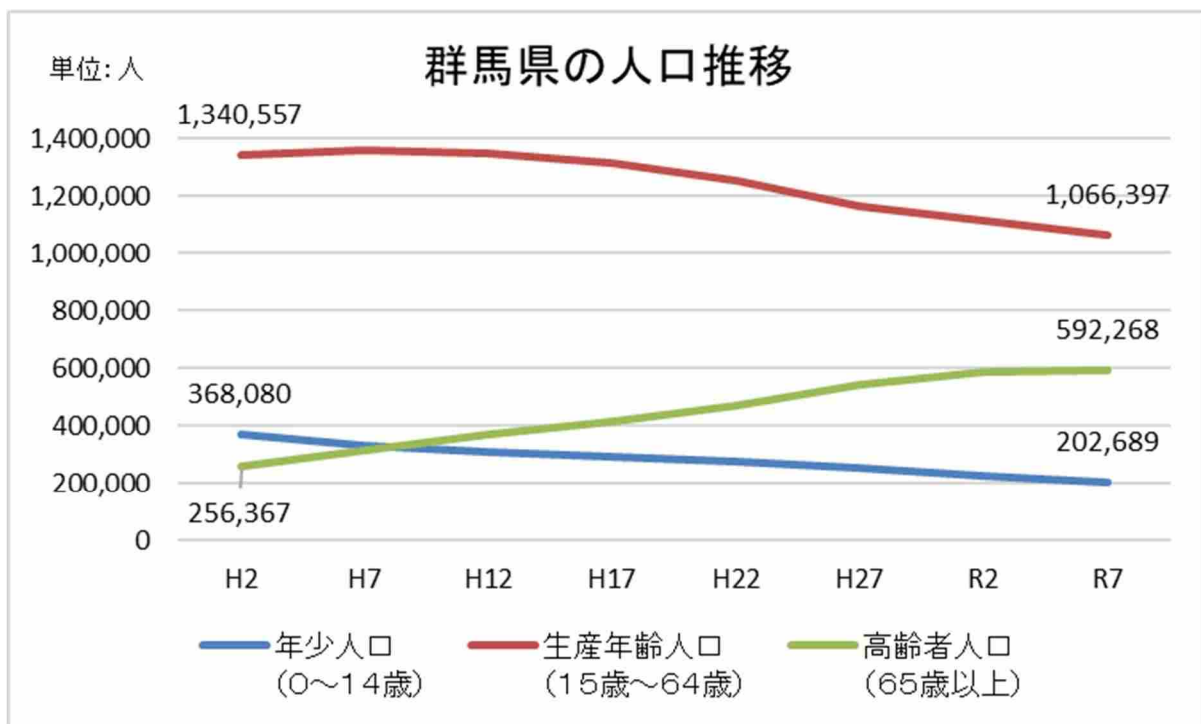
第2章 群馬県のスポーツを取り巻く社会課題

1 人口減少・少子高齢化の進展

群馬県の人口は、平成16年の2,035千人をピークに減少し、令和元年は1,938千人であり、令和11年(2029年)には1,805千人まで減少すると推計されています。

年齢別では、年少人口(15歳未満人口)の割合は、令和元年の12.0%から令和11年には1.5ポイント減少して10.5%となる一方で、老年人口(65歳以上人口)の割合は、令和元年の29.9%から令和11年には2.9ポイント増加して32.8%となることが予想されています。

人口減少・少子高齢化が進展し、社会全体の活力低下が懸念される中で、生きがいづくりや健康増進の観点から、今まで以上にスポーツの重要性が高まっています。また、子どもの頃から運動やスポーツに親しむ機会を増やすことで、運動習慣の定着を促進することがより重要になっています。

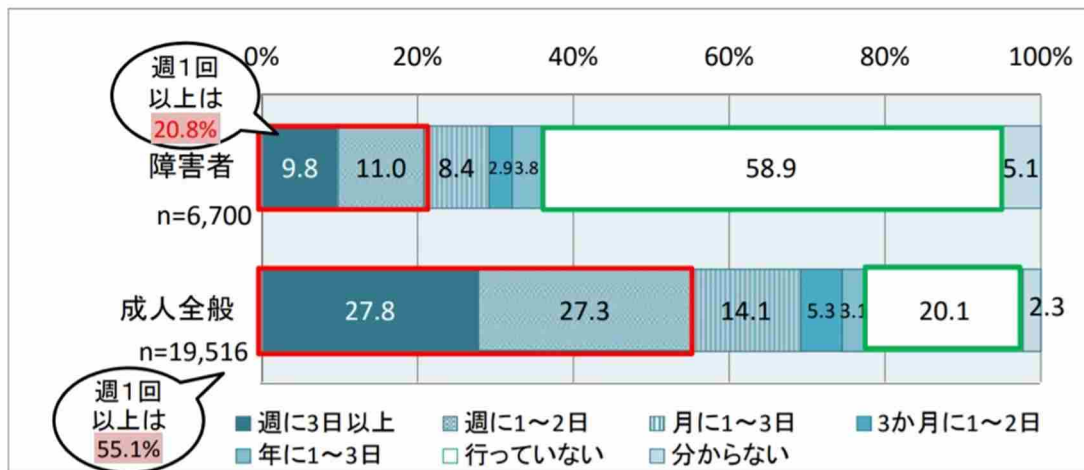


資料 群馬県「群馬県の将来推計人口」(令和元年度)及び
総務省統計局「平成27年国勢調査」をもとに作成

2 共生社会実現への障壁

スポーツ庁が行った調査によると、成人では、障害のある人のスポーツ習慣は週1回以上が20.8%で、全体の55.1%と比較すると大きな差があることがわかります。障害のある人の約半数がスポーツに対する関心が低いという現状や体力的な問題など、障害のある人がスポーツをする際の障壁が多いことも課題となっています。

また、県民へのアンケートの調査から、子育て世代の女性のスポーツ参加が少ないことや、高齢者が身体的な理由でスポーツを断念していることがわかります。県民それぞれのおかれている状況によって、スポーツの実施が難しい要因があることから、個々の状況を踏まえた対策が求められます。



資料 平成 29 年度スポーツ庁委託事業「地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」報告書及びスポーツ庁「平成 30 年度スポーツ実施状況等に関する世論調査」

3 地域コミュニティの機能の低下

人口減少・少子高齢化の進展や価値観の多様化等により、地域内での交流の減少や日常生活を送る上での関係性の希薄化など、地域コミュニティの機能の低下が危惧されています。

各地域を拠点に活動する総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などにおいて、県民の主体的なスポーツ活動を通じたコミュニケーションの機会を増加させるほか、地域に根ざしたプロスポーツチームや新たに注目を浴びつつあるeスポーツやアーバンスポーツなど、多様なスポーツ活動が地域の魅力づくりやまちづくりの重要なコンテンツになると考えられます。



【ガスパクサツ群馬の選手とサポーター】



【総合型地域スポーツクラブの様子】

4 アスリートの更なる育成と輩出

令和元年に開催されたラグビーワールドカップでは、本県にゆかりのある選手が活躍し、大きく注目を浴びました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となりましたが、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は、夏季オリンピックとしては昭和 39 年以来の日本開催であることから、大きな関心を集めています。

さらに、令和 11 年(2029 年)には、本県で二巡目となる第 83 回国民スポーツ大会及び第 28 回全国障害者スポーツ大会が開催される予定であり、今後、準備を本格化させるとともに、大会を契機に更なるスポーツ振興を進める必要があります。

本県の選手がスポーツの大舞台で活躍することは、選手自身の自己実現だけでなく、見る人の感動を呼び起こし、県民全体の誇りの醸成にもつながることから、引き続き本県選手の競技力向上対策に取り組んでいく必要があります。

◎本県関係選手のオリンピック・パラリンピック出場選手

大会	出場選手	競技種目	大会	出場選手	競技種目	
リオ (2016年)	内田 美希	競泳	平昌 (2018年)	土屋 良輔	スピードスケート	
	貴田 裕美	OWS		佐藤 綾乃		
	志賀 光明	水球		坂爪 亮介	ショートトラック	
	柳瀬 彰良			山本 泰成	フリースタイルスキー	
	塩尻 和也	陸上競技	東京 (2021年)※	今井 美穂	マウンテンバイク	
	北島 寿典			唐澤 剣也	パラ・陸上競技	
	見延 和靖	フェンシング		永井 崇匡	パラ・柔道	
	西岡 詩穂					
	青木 千佳					
		鈴木 武蔵	サッカー			
		福岡 堅樹	ラグビーフットボール			
		高橋 正直	馬術			

※ 令和2年12月1日現在の日本代表候補内定選手

資料 群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課

5 新型コロナウイルス感染症の影響

現在、新型コロナウイルスの感染が世界中に広がり、様々な分野で従来の活動が難しくなっています。スポーツ分野では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、鹿児島での国民体育大会や北関東総体 2020 を始め、多くの大会が延期・中止を余儀なくされたほか、その他のスポーツの大会やイベントでも、無観客や人数制限を行ったうえで試合を開催するなど、大きな影響を受けています。

人々の活動が制限される中で、心身の健康維持や自己実現のため、運動やスポーツの重要性が再認識されています。また、コロナ禍でもアスリートの活躍は人々の感動を生んでおり、スポーツは私たちの生活に欠かせないものとなっています。

今後、新型コロナウイルス感染症を始めとした世界規模の感染症の拡大に備え、三密の状況¹を回避する新たな生活様式に対応したスポーツのあり方の検討が求められています。

◎新たな生活様式に対応したスポーツの実践例

- ・プロスポーツでは、感染拡大防止を徹底するため、人数制限を行った上で観客を動員するなど、感染リスクを低減させる方策をとっています。また、大きな声での応援が制限される中、観客席の一部をチームカラーで埋めるなどして試合を盛り上げています。
- ・全国各地のマラソン大会では多くのランナーが一堂に会してしまうため、各自がスマートフォンのアプリ等を活用し、マラソンに挑戦するオンラインマラソンが開催されています。
- ・運動不足に陥らないよう、プロスポーツ選手や自治体等が身近な環境で行うことができるスポーツの動画やトレーニング動画などをSNSや動画配信サイトで発信しています。
- ・指導者へ自分がプレーする姿の動画を送ることにより、遠隔地にいる指導者からの指導を受ける新たな取組が進んでいます。
- ・スポーツ施設では換気設備の整備や、器具類の間隔を空けるなどの対応をしています。

¹ 密閉、密集、密接のこと

第3章 群馬県が目指す姿

1 基本理念

県民誰もがスポーツによって、自己実現を図り、 健康で活力ある群馬県を創生する

スポーツは、私たちの生活を充実させ、人生を豊かにします。そして、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる共通の文化です。同時にスポーツは、自分自身だけでなく、社会全体を発展させる原動力となります。

群馬県スポーツ推進計画では、「魅力」が溢れ、「幸福」に満ちた群馬県を創るために、基本理念を定めました。「スポーツの力でこれからの社会を豊かにする」という観点から、県民がスポーツに触れる機会を増やし、その中で自己実現を図り、豊かで健康に生活できる群馬県を目指します。

2 政策目標

基本理念を実現するために、4つの政策目標を定め、取り組んでいきます。

I スポーツによる健康増進・生きがいづくり

より多くの県民がスポーツに親しみ、誰もが生きがいを感じ、元気に暮らせるよう、身近な場所でスポーツができる環境を拡大するなどしてスポーツ参画人口を増加させます。

II スポーツによる共生社会の推進

県民誰もがそれぞれのライフステージや状況に応じてスポーツに参画しやすい環境づくりを進め、相互に理解・尊重できる社会をつくります。

III スポーツによる活力ある地域創生

地域に根ざしたプロスポーツや本県の自然を生かしたアウトドアスポーツ、近年注目を浴びつつあるeスポーツなどのスポーツ資源を活用して、地域を活性化します。

IV スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成

本県ゆかりのアスリートが活躍し、自己実現できるよう支援するとともに、その活躍により県民が感動を覚え、誇りを抱ける社会をつくります。

3 DX 展開による新たな価値の創造

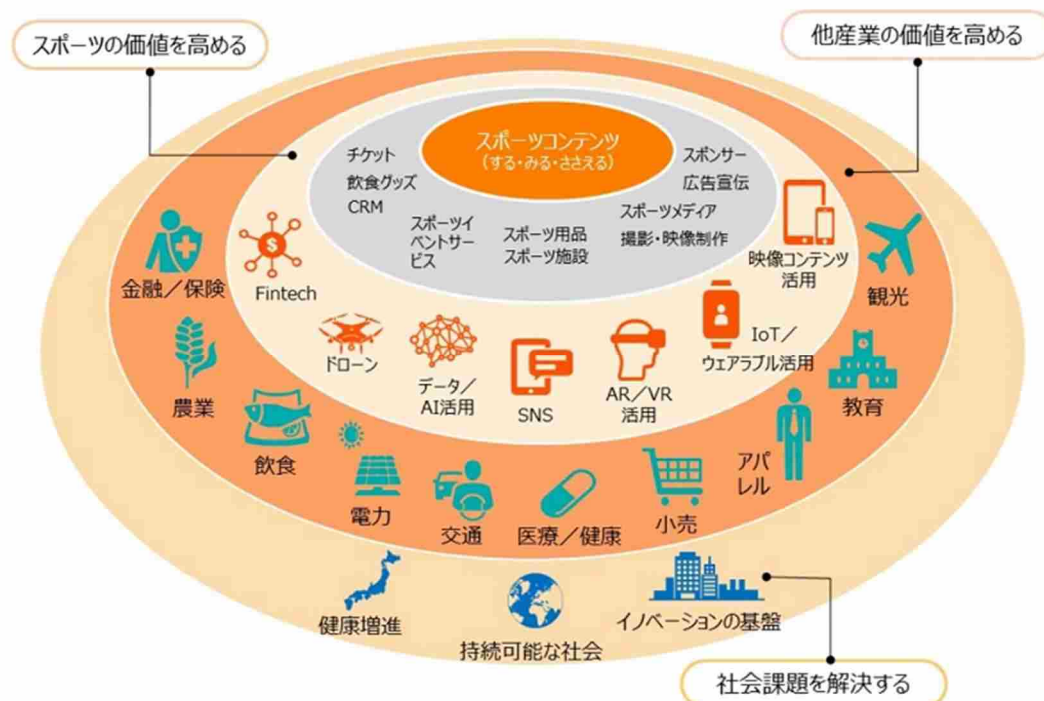
近年、次世代通信技術5G や仮想現実(VR)など、デジタル技術の革新が進み、DX(デジタルトランスフォーメーション²)が社会の変革の原動力として期待されています。

スポーツ分野においてもDX展開は進んでおり、データ活用や画像解析による選手のパフォーマンス向上のための新手法が生まれているほか、スポーツ観戦においては、バーチャル観戦や多視点・異視点映像の表示、肉眼では捉えられないパワーや衝撃の可視化、選手情報の表示など、これまでになかった新たな観戦体験を可能にする取り組みが進んでいます。

また、パワードスーツやスポーツギアの活用による障害のある人・高齢者の新たなスポーツ参加の促進や、ビッグデータ解析による健康寿命の延伸、地域コミュニティの活性化、医療や福祉への活用に加え、スポーツ会場周辺の観光情報の表示など、スポーツがもたらす価値を高めたり、他産業への波及も期待されています。

本県においても、各種データを活用したトレーニングなどデジタル技術を活用した取組が進んできているところですが、今後、更なるデジタル技術の活用により、スポーツが持つ新たな価値が創造され、ビジネス機会の創出・拡大や社会課題の解決につながることを期待されます。

さらに、プロスポーツを核としたスポーツの成長産業化やアウトドアスポーツの拠点づくりなど、県民や民間企業などと連携して、スポーツだけでなく、他分野を巻き込みながら新たな価値を生み出す場面においても、DXの活用が有効と考えられます。



資料 スポーツ庁「Sports Open Innovation Platform (SOIP)～スポーツの場から新たな財・サービスが創出される社会の実現～」

² デジタル技術を活用した業務やビジネスの変革のこと。スポーツ分野でも活用が期待されている。

4 スポーツの成長産業化

スポーツに対する多様なニーズに対応するためには、スポーツの持つ多面的な機能を踏まえ、他分野と融合することにより、新たなスポーツ市場を創出し、「スポーツによって収益を上げ、その収益をスポーツに再投資する」という好循環を生み出していくことが重要です。

スポーツを産業として捉え、成長する産業にしていくことは、地域経済にプラスに働くだけでなく、スポーツ人口の裾野拡大や競技力向上などスポーツそのものの発展にもつながります。

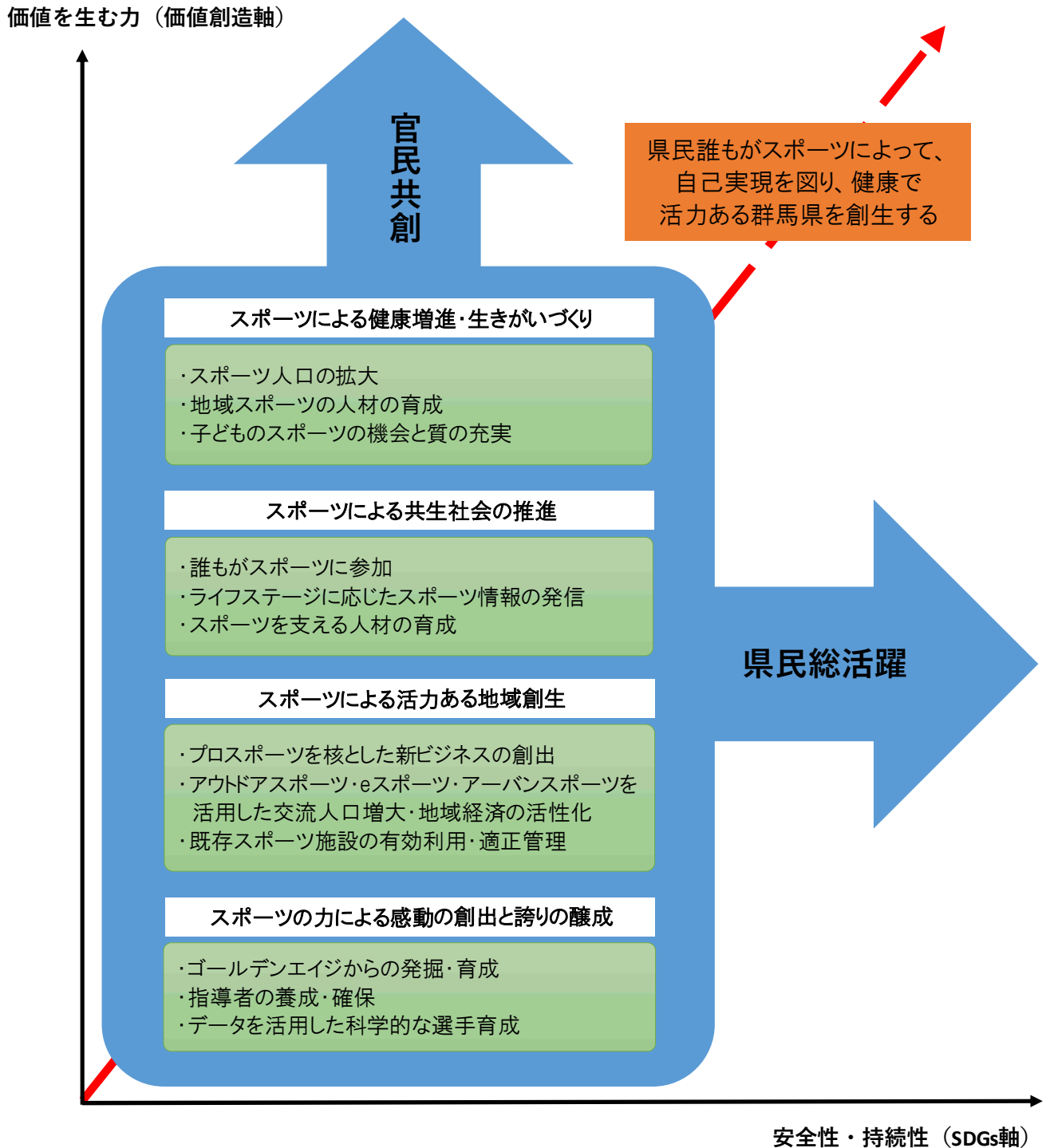
国では、スタジアム・アリーナを核としたまちづくりやアマチュアスポーツ団体等の経営力強化、高校・大学スポーツの資源(施設、人材等)の有効活用、スポーツ経営人材の育成・確保、DXの展開や他産業(健康、食、医療、観光、ファッション等)との融合による新たなビジネスの創出などに向けた動きが進んでおり、スポーツ市場の規模を令和7年(2025年)までに15兆円に拡大することを目指しています。

本県においても、今後、官民共創により、県内のプロスポーツチームと他業種企業や関係機関等を結びつけ、新たなサービスや市場の創出に向けた取り組みを進めるほか、アウトドアスポーツの拠点づくりによるスポーツツーリズムの推進や、スポーツを活用した健康寿命の延伸に向けたサービスの展開などにより、スポーツの成長産業化につなげていきます。









【スタジアムを中心としたまちづくり（高崎市ソフトボール場）】

5 スポーツ推進計画と新・群馬県総合計画(ビジョン)の関係



◎本計画で目標とするSDGsの達成目標

<p>【目標3】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。 →運動やスポーツは、健康的で生きがいのある生活を送るための重要な要素です。</p>	
<p>【目標4】すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。 →スポーツ活動によるプログラムは社会生活でも応用できるスキルの取得にもなります。</p>	
<p>【目標5】ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。 →スポーツ活動により、女性の社会進出やジェンダー平等の実現に向けた意識変革が進みます。</p>	
<p>【目標8】すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用及びディーセント・ワーク(※)を推進する。 →スポーツの成長産業化を進めることで、新たな雇用が生まれ、経済活動の原動力となります。</p>	
<p>【目標10】国内および国家間の不平等を是正する。 →スポーツは誰でも参加することができ、様々な格差を縮めることに適したツールとなります。</p>	
<p>【目標11】都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。 →スポーツによる交流により、地域が活性化し、持続可能な生活の場を生みます。</p>	

※働きがいのある人間らしい仕事のこと。

2015年9月に開催された国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、SDGs(エスディーゼーズ:持続可能な開発目標)が掲げられました。

SDGsは持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さないこと」を誓っています。SDGsは経済、社会など包括的な地域課題の解決に貢献する考え方であり、スポーツ分野でもこれらの課題の解決に資することができます。スポーツの持つ人々を集める力や人々を巻き込む力を使ってSDGsを達成し、ひいては、社会におけるスポーツの価値のさらなる向上を目指します。

6 計画体系図

政策目標	施策	今後の施策展開
I. スポーツによる健康増進・生きがいづくり	1. スポーツ参画人口の増加	(1)日常生活のスポーツ機会の拡大
		(2)時間と場所にとらわれないスポーツ体験
		(3)ICTを活用した運動習慣の定着
	2. 地域スポーツを支える人材の育成と機会の充実	(1)地域のスポーツを支える人材の確保
		(2)総合型地域スポーツクラブの育成と支援
	3. 子どものスポーツ機会の充実	(1)幼児期からの体力向上の推進
		(2)学校の体育に関する活動の充実
		(3)運動部活動の充実
		(4)子どもを取り巻く地域のスポーツ環境の充実
	4. 高齢者のスポーツ参加	(1)高齢者のスポーツ参加の促進
		(2)日常生活のスポーツ機会の拡大
	II. スポーツによる共生社会の推進	1. 障害者のスポーツ参加
(2)障害者スポーツの競技団体の育成、競技力向上支援、指導員の養成		
(3)各種障害者スポーツ大会の開催		
2. 高齢者のスポーツ参加(再掲)		(1)高齢者のスポーツ参加の促進
		(2)日常生活のスポーツ機会の拡大
3. ライフステージの変化や性別に関わらないスポーツ参加		(1)時間と場所にとらわれないスポーツ体験
		(2)女性のライフステージに応じたスポーツ参加の推進
		(3)女性指導者の育成
III. スポーツによる活力ある地域創生		1. スポーツによる地域の魅力発信
	(2)プロスポーツチームの魅力向上	
	(3)トップレベルのスポーツに触れる機会の提供	
	(4)スポーツを通じた国際交流の促進	
	2. アウトドアスポーツによる交流人口の増大	(1)観光産業と連携したスポーツツーリズムの推進
		(2)スポーツコミッションの活動推進
	3. eスポーツ、アーバンスポーツによる地域経済の活性化	(1)eスポーツの普及・拠点化
		(2)アーバンスポーツ(3x3,BMX,スケートボード等)を活用した地域活性化
	4. スポーツ施設の有効活用	(1)民間連携を含めたストックの有効活用
		(2)競技別拠点スポーツ施設の効率的な維持管理
		(3)誰もが利用しやすい施設の整備
	IV. スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成	1. アスリートの発掘・育成
(2)世界に羽ばたくアスリートの育成・強化		
2. アスリートをサポートする人材・組織の育成		(1)指導者等の養成・確保
		(2)競技力向上のための大学・企業等との連携
		(3)ICTによる専門的な指導を受ける機会の拡大
3. 競技力を向上させる環境の整備		(1)データを活用した科学的な選手育成
		(2)スポーツドクター・公認スポーツ栄養士・アスレティックトレーナー等を活用したパフォーマンスの向上

7 政策目標別の取組

I. スポーツによる健康増進・生きがいづくり



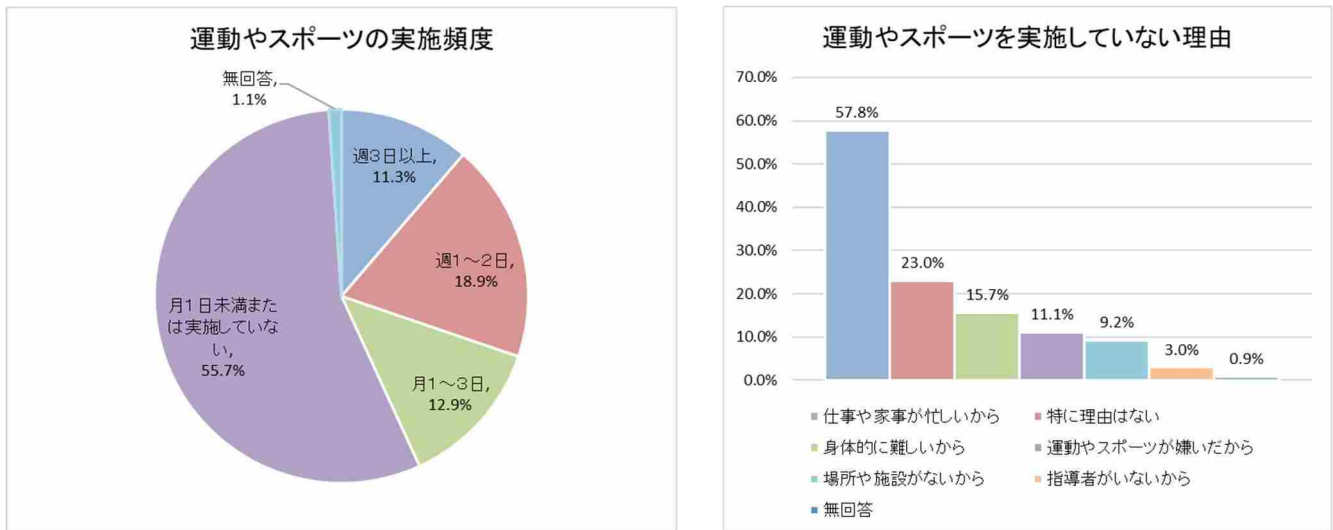
【施策】

1. スポーツ参画人口の増加

【現状と課題】

平成 29 年3月に国が策定した「第2期スポーツ基本計画」では、成人のスポーツ実施頻度について、週1回以上が 65%程度(障害者は 40%程度)、週3回以上が 30%程度(障害者は 20%程度)とすることを目標としています。

疾病等の予防や生活機能低下のリスクを低減させることにつながるため、日常の運動習慣を身につけることが大切ですが、県民へのアンケート調査を行ったところ、運動やスポーツの実施頻度は、週1日以上が 30.1%であり、全国平均の 53.6%よりも大幅に低い結果となりました。主な理由としては、「仕事や家事が忙しい」や「身体的に難しい」などの割合が大きく、運動習慣の定着を図るためにはそうした状況に応じた対策が必要です。



資料 群馬県「県政県民意識アンケート報告書(詳細版)」(令和元年度)

【今後の施策展開】

(1) 日常生活のスポーツ機会の拡大

○スポーツイベント等の開催

本県では、多様な種目が行われる県民スポーツ祭、各地域対抗の県民スポーツ大会や、県内最大規模のランニングイベントであるぐんまマラソンなど、様々なスポーツイベントを開催しています。こうしたスポーツイベントは県民がスポーツに親しむ重要な機会になっており、引き続き子どもから高齢者まで多くの県民が参加できるよう、スポーツイベントの充実に努めます。

○「ふるさとぐんま健康のみち³」普及啓発

身近な道を楽しく歩くことにより健康につながるために、市町村のウォーキングコースの活用方法を、県ホームページやぐんま元気アプリ⁴で公開するとともに、健康な歩き方の普及啓発を推進します。

³ 県内市町村から推薦のあったウォーキングコースをとりまとめたもので、県ホームページやぐんま元気アプリで公開している。

⁴ 県交通政策課が公開しているアプリ「ぐんま乗り換えコンシェルジュ」内のコンテンツで、県内市町村のウォーキングコースが閲覧でき、ウォーキングコースの踏破を目指すピンゴ機能、歩数計測機能等が利用できる。

○「ぐんま元気(GENKI)の5か条」普及啓発

県民に取り組んでほしい健康づくりの実践事項「ぐんま元気(GENKI)の5か条」の普及啓発を推進し、毎日プラス10分、意識して体を動かすことを推進します。また、元気に“動こう・歩こう”実践リーダー⁵等による地域や職場での実践活動や健康づくりノート⁶やぐんま元気アプリ等のツールの活用を通して、運動習慣の継続と定着を推進します。

○総合型地域スポーツクラブの活動の活性化

それぞれのライフステージや関心、体力に応じてスポーツ活動に参加できる環境を日常生活の中に創出するため、多世代・多種目・多志向という特徴を持つ総合型地域スポーツクラブ⁷の設立や会員数の増加を目標に、市町村等と連携し支援を行います。

(2)時間と場所にとらわれないスポーツ体験

○動画配信による運動習慣の定着及び機会の確保

子どもから高齢者までが、家にいながらも体を動かしたり、運動する機会を確保し、また、まとまった時間が確保できない中でも気軽に運動に取り組むことができるよう、健康運動指導士や体育教諭、スポーツ指導者等と連携した動画を tsulun⁸等を活用して配信します。

(3)ICT⁹を活用した運動習慣の定着

○スマートフォンアプリを活用した健康づくり

県民一人ひとりが「自らの健康は自らがつくる」という意識を持って、それぞれの年齢や健康状態等に応じた健康づくりに取り組むことを目指し、スマートフォンアプリを活用することにより、ウォーキングなどの取組をポイント化して特典を提供する健康ポイント制度に取り組みます。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
スポーツ実施率(週1回以上)	30.1%	53.6%

◎ぐんま元気(GENKI)の5か条

第1条 G げんき(元気)に動いて ぐっすり睡眠(運動・休養)

第2条 E えんぶん(塩分)ひかえて 食事はバランスよく(食生活)

第3条 N なかま(仲間)をつくって 健康づくり(社会参加・健(検)診)

第4条 K きんえん(禁煙)めざして お酒は適度に(喫煙・飲酒)

第5条 I いいは(歯)を保って いつも笑顔(歯と口・こころの健康)

⁵ 地域や職域等において「元気に“動こう・歩こう”」の実践活動をコーディネートできる人材として、育成研修を終了した者。

⁶ 日常生活で「楽しく」身体を動かすことの定着化を支援するため、健康づくりを実践するヒントとして、目標の立て方や記録ページ、身体活動や運動などの資料を掲載しているノート。

⁷ 子供から高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

⁸ 県庁32階に設置されている動画スタジオで、Youtubeを活用して動画を配信している。

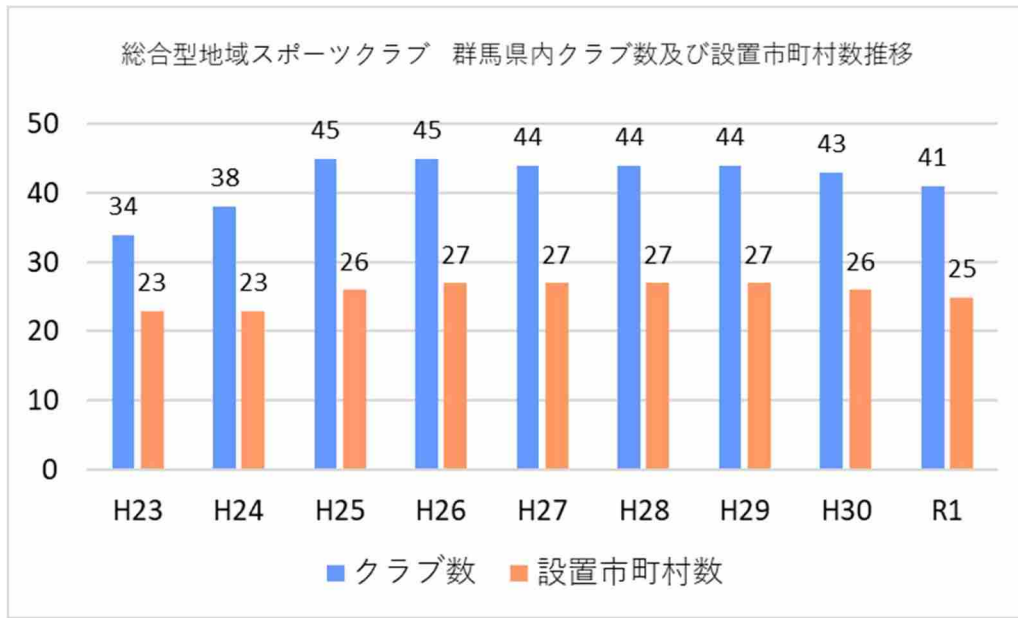
⁹ 通信技術を活用して、人とインターネット、人と人がつながる技術のこと。

【施策】

2. 地域スポーツを支える人材の育成と機会の充実

【現状と課題】

スポーツは健康増進や体力づくりだけでなく、まちづくりや地域づくりにおいても重要な役割を果たしています。地域におけるスポーツ活動の推進には、行政だけではなく、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、市町村体育協会など多様な主体との連携が必要です。また、地域のスポーツを支えるマンパワーの充実が鍵となっています。



資料 群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課

【今後の施策展開】

(1) 地域のスポーツを支える人材の確保

○スポーツ推進委員活動の活発化

スポーツ推進委員は、各市町村において住民に対する実技指導やスポーツ関連の企画運営及び地域と行政の調整を行うなど、地域のスポーツ推進に重要な役割を担っていることから、市町村と連携してブロック研修会や地域間交流大会など各種研修会等を開催し、スポーツ推進委員の活動の充実を図ります。

○大学、企業、プロスポーツ等との連携

スポーツの裾野の拡大及び技術の向上を図るため、重要なスポーツ資源である大学や企業、プロスポーツチームと連携して、トップアスリート等の技術や経験を地域にフィードバックする取組を進めます。

○スポーツを支える人や団体のさらなる意識向上と活動内容の周知

地域や職場などで、地道な活動を継続し、生涯スポーツの普及及び発展に貢献した生涯スポーツ関係者及び生涯スポーツ団体を表彰します。

○スポーツ少年団を始めとした子どものスポーツに関連する団体との連携

地域における子どものスポーツの機会を充実させるため、地域で活動するスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、競技団体、市町村等、子どものスポーツに関連する様々な団体と連携し、地域のスポーツ活動の活性化に向けた取組を推進します。

(2) 総合型地域スポーツクラブの育成と支援

○総合型地域スポーツクラブの未設置市町村における設立支援

地域スポーツ推進の重要な主体である総合型地域スポーツクラブについて、未設置市町村に対してはクラブアドバイザー¹⁰による巡回相談や個別相談の場を設け、設立支援を行います。

○総合型地域スポーツクラブの活動の活性化

総合型地域スポーツクラブ相互の情報交換や連携、交流等を活性化するとともに、クラブと市町村の連携を促進し、また、令和4年度から開始予定の総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の円滑な導入を図るとともに、研修会等を開催して県内の総合型地域スポーツクラブの安定的な運営に向けた支援を行います。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
総合型地域スポーツクラブ数	41	51



【総合型地域スポーツクラブで活動する様子】



【スポーツ少年団で活動する子どもたち】

¹⁰ 総合型地域スポーツクラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しているアドバイザー。

【施策】

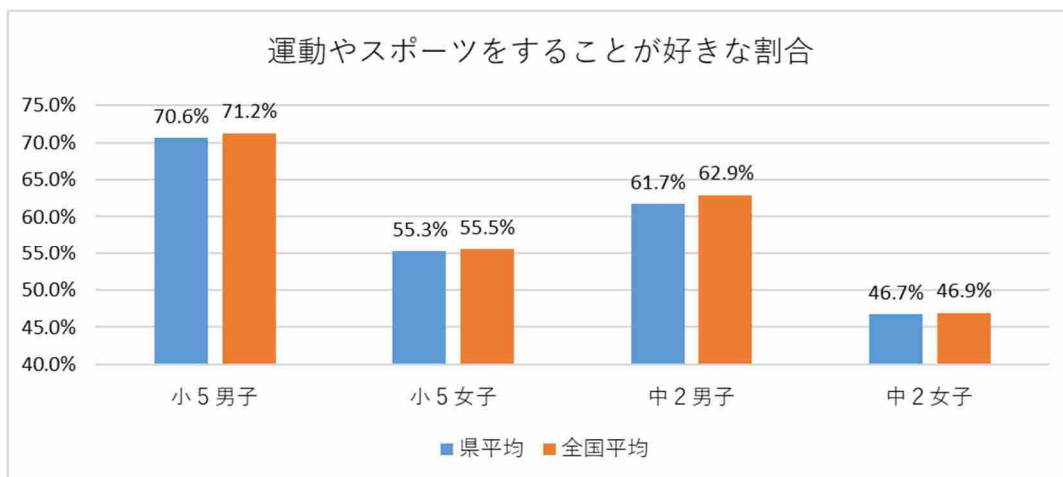
3. 子どものスポーツ機会の充実

【現状と課題】

子どもが遊びなどの中で身体活動を行うことは、心身両面の発育・発達に重要であり、幼児期から様々な運動を経験できる機会を確保する必要があります。

また、食生活の多様化が進む中で、子どもにおいても食の乱れや運動不足等から健康への影響がみられます。スポーツをする子どもたちの健全な心身の発達のために、食育の推進により適切な食生活の実践を支援することが必要です。

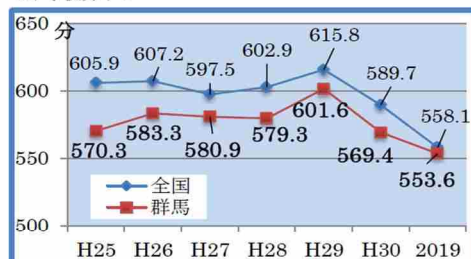
本県では、運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合は、全国平均をわずかに下回っておりますが、平成29年度以降、体育の授業以外での運動やスポーツについて、一週間の総運動時間が減少しています。子どものスポーツ習慣の定着のためには、運動やスポーツを好きな子どもを増やしていく必要があります。



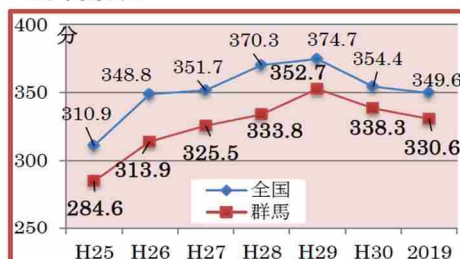
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

体育の授業時間以外での運動やスポーツについて（1週間の総運動時間）

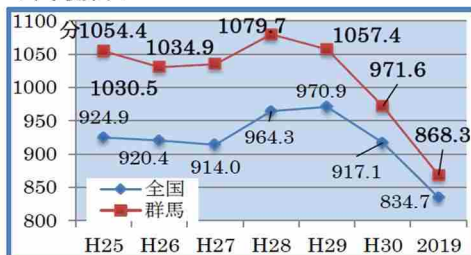
<小学校男子>



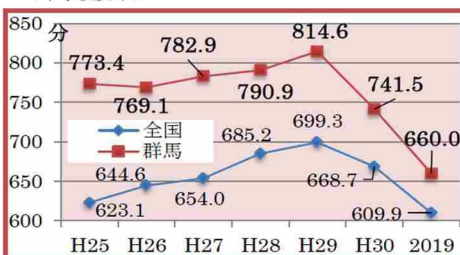
<小学校女子>



<中学校男子>



<中学校女子>



資料 文部科学省、スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」をもとに作成

地域でのスポーツ活動の状況を見ると、地域スポーツクラブへの所属率は全国平均に比べ高い傾向(小学校男子:全国 48.2%、本県 52.7%、小学校女子:全国 31.5%、本県 35.2%、中学校男子:全国 18.4%、本県 19.5%、中学校女子:全国 10.8%、本県 11.6%)ですが、地域スポーツクラブの設置状況には、地域差も見受けられます。

【今後の施策展開】

(1) 幼児期からの体力向上の推進

○実践例等の紹介

就学前の子どもが運動に親しめるよう、体を動かしたくなる取組を掲載した「就学前のぐんまの子どものはぐみプラン」等を活用し、保育者に具体的な実践例等を紹介します。

○就学前後における一貫した取組推進

幼小のつながりを踏まえた体力向上の取組を推進していくため、小学校の体育担当者や保育者向けの研修会等を開催します。

○食育推進

健全な心と体を培うため、学校等での食育の推進を通して、体づくりや基礎体力の向上に必要な栄養・食生活の正しい知識の普及を図ります。

(2) 学校の体育に関する活動の充実

○各学校の特色を生かした取組推進

各小・中学校ならではの特色ある体力向上の取組を推進するため、各学校ごとに地域の特性や児童生徒の現状を踏まえた「体力向上プラン¹¹」を作成し、保護者や地域と連携を図り、子どもの体力向上に取り組めます。

○発達段階に応じた運動の充実

発達段階に応じた運動機会を充実させるため、各学校において「子どもの体力向上ガイドブック¹²」等の指導資料を活用した取組を推進します。

(3) 運動部活動の充実

○社会環境の変化に応じた部活動の推進

部活動がこれまで果たしてきた教育的価値を踏まえつつ、「多様化する生徒のニーズへの対応」、「地域との連携」、「学校規模に応じた部活動の設置の在り方」等、今後の部活動について、学校や家庭、地域、関係機関と協議し、部活動を取り巻く社会環境の変化に対応した取組を推進します。

○外部指導者の活用推進

生徒の多様な実技指導のニーズへの対応や顧問の指導力の向上を図るため、専門的な技能・指導力を備えた外部指導者を派遣するとともに、教員の多忙化解消と部活動の質的な向上を目的として、希望する市町村の中学校に部活動指導員を派遣することにより、部活動の充実を図ります。さらには、外部指導者を対象とした研修会により、指導力の向上を図ります。

¹¹ 各学校が、新体力テスト等の結果をもとに、自校の児童生徒の実態を把握し、課題に即した学校独自の計画を立てて実践する体力向上のための総合的な取組。

¹² 体力向上推進モデル校や体力向上取組優良校の取組、子どもの体力向上指導者研修会の資料等、各学校における体力向上の参考となる資料をまとめた冊子。

(4)子どもを取り巻く地域のスポーツ環境の充実

○スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの活性化

子どものスポーツ環境の充実を図るため、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ連絡協議会などが行う研修会及び講習会の開催、交流大会の開催など、地域スポーツ団体が活性化する取組を支援します。

○プロスポーツに触れる機会の提供

トップレベルの選手のプレーを見ることや選手と交流することは、子どものスポーツに対する関心を高め、スポーツに親しむ契機になると期待されます。このため、プロスポーツに触れる機会の少ない地域において、子どもたちを対象としたスポーツ教室を開催するなど、より多くの触れあう機会の創出を推進します。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
1週間の総運動時間(体育・保健体育の授業時間以外)の全国平均との差	小学5年男子…-4.5分 小学5年女子…-19.0分 中学2年男子…+33.6分 中学2年女子…+50.1分	小学校・中学校ともに 全国平均以上



【体育の授業の様子】



【スポーツ教室(群馬ダイヤモンドペガサス)】

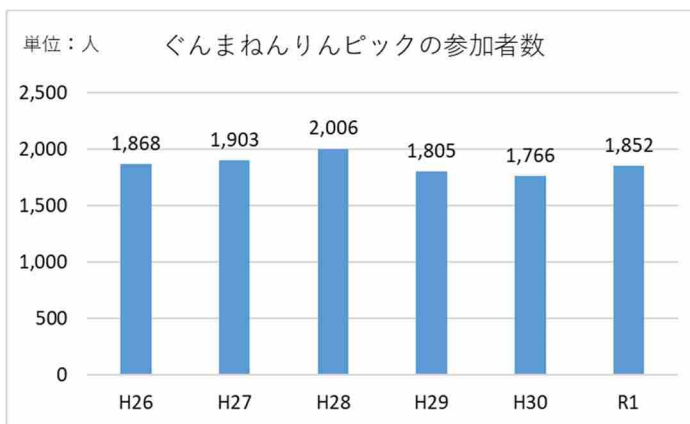
【施策】

4. 高齢者のスポーツ参加

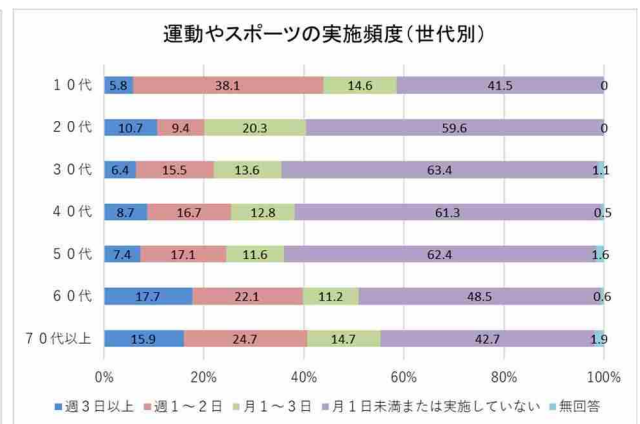
【現状と課題】

県民へのアンケート調査では、週1日以上運動やスポーツを実施している割合は、60代で39.8%であり、70代以上で40.6%でしたが、「身体的に難しい」といった理由で運動やスポーツを実施していない割合も多く、高齢者がいつまでも元気に活躍を続けるためには、自ら健康づくりを心掛け、日常生活の中で適度な運動を実施することが必要であり、県民スポーツ祭やぐんまねりんピック等のイベントはその契機になります。

また、高齢者が身近な地域でスポーツに親しむために、総合型地域スポーツクラブの活動の充実を図り、参加を促進することが重要であり、さらには活動が充実することで、地域の活性化につながります。



資料 群馬県健康福祉部介護高齢課



資料 群馬県「県政県民意識アンケート報告書(詳細版)」
(令和元年度)

【今後の施策展開】

(1) 高齢者のスポーツ参加の促進

○各種高齢者スポーツ大会の開催及び派遣

スポーツや文化活動を通じて、高齢者の健康の保持増進と交流を図り、県民総スポーツの輪を広げるとともに、生きがいづくりを進め、ふれあいと活力ある長寿社会づくりを推進するため、ぐんまねりんピックを開催します。

また、全国健康福祉祭(ねりんピック)へ群馬県選手団を派遣し、スポーツや文化種目の交流大会を始め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者の積極的な仲間づくりや世代間交流を促進するとともに、正しい健康づくりへの理解を深めてもらうよう推進します。

○高齢者が気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション等の普及

スポーツに関する各種講座等により、高齢者が気軽に楽しみ、身体的に負担の少ないスポーツ・レクリエーションを推進するとともに、総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツ団体が自治会や老人クラブ等との連携を深め、高齢者の身近なコミュニティにおける活動が活性化するよう支援します。

(2) 日常生活のスポーツ機会の拡大(一部再掲)

○「ふるさとぐんま健康のみち」普及啓発

身近な道を楽しく歩くことにより健康につなげるために、市町村のウォーキングコースの活用方法を、県ホームページやぐんま元気アプリで公開するとともに、健康な歩き方の普及啓発を推進します。

○「ぐんま元気(GENKI)の5か条」普及啓発

県民に取り組んでほしい健康づくりの実践事項「ぐんま元気(GENKI)の5か条」の普及啓発を推進し、毎日プラス10分、意識して体を動かすことを推進します。また、元気に“動こう・歩こう”実践リーダー等による地域や職場での実践活動や健康づくりノートやぐんま元気アプリ等のツールの活用を通して、運動習慣の継続と定着を推進します。

○総合型地域スポーツクラブの活動の活性化

それぞれのライフステージや関心、体力に応じてスポーツ活動に参加できる環境を日常生活の中に創出するため、多世代・多種目・多志向という特徴を持つ総合型地域スポーツクラブの設立や会員数の増加を目標に、市町村等と連携し支援を行います。

○介護予防・フレイル予防の推進

介護予防関連サポーターが、各地域における高齢者が行う自主的な体操等の取組を支えるボランティアとして活躍し、高齢者の介護予防に取り組んでいます。

県では、市町村が実情に応じて実施する介護予防関連サポーターの養成や高齢者の社会参加等を通じた介護予防・フレイル予防の推進、住民主体の通いの場の充実等の取組を地域リハビリテーション支援センターや地域リハビリテーション広域支援センターと連携し支援します。

○高齢者向けのトレーニング動画配信

高齢者の生活に必要な筋力を高めるトレーニング等の介護予防に効果的な体操を紹介する動画を配信し、家庭においてもトレーニングに取り組めるよう支援します。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
高齢者(60代以上)のスポーツ実施率(週1回以上)	40.1%	67.4%



【全国健康福祉祭(ねんりんピック)】



【高齢者向けのトレーニング動画】

Ⅱ. スポーツによる共生社会の推進



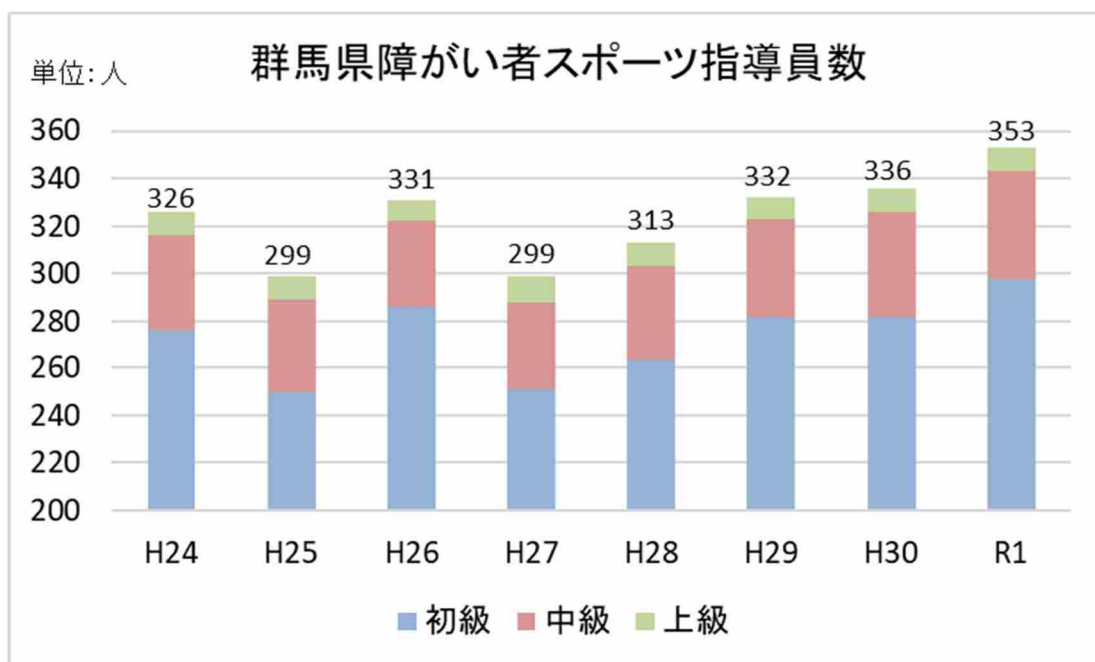
【施策】

1. 障害者のスポーツ参加

【現状と課題】

障害のある人のスポーツ活動を通じた社会参加の促進のため、各種障害者スポーツ大会の開催や全国障害者スポーツ大会への派遣等を行い、また、障害者スポーツの競技力の向上のため、選手・競技団体の育成や指導員の養成に取り組んできました。一方で、障害者スポーツに関する情報の提供や指導者等の不足、障害者スポーツを行う環境整備、選手・競技団体等への財政的支援等が課題です。

また、令和 11 年(2029 年)には、第 28 回全国障害者スポーツ大会が本県で開催される予定であり、障害者スポーツのより一層の普及を図るとともに、競技力を向上させる取組も必要となっています。



資料 群馬県健康福祉部障害政策課

【今後の施策展開】

(1) 障害者スポーツの啓発・情報発信

○新たな競技者、支援者の掘り起こし

群馬県障害者スポーツ協会に配置している障害者スポーツコーディネーターが、障害者スポーツを新しく始めたい人や支援したい人からの相談を受け、競技団体等との連携を図ります。

また、群馬県障害者スポーツ協会の HP 等を活用するなどして、障害者スポーツに関する情報発信を行います。

○関係団体との普及啓発活動

特別支援学校や総合型スポーツクラブ等と連携し、特別支援学校等へのパラアスリートの派遣、障害者スポーツの体験教室を行うなど、障害者スポーツの普及啓発活動を行います。

(2)障害者スポーツの競技団体の育成、競技力向上支援、指導員の養成

○選手及び競技団体の育成

群馬県障害者スポーツ協会や群馬県障がい者スポーツ指導者協議会、群馬県スポーツ協会等と連携し、国際大会や全国レベルでの大会等で活躍が期待できる選手の支援を行います。

また、障害者スポーツを行う競技団体の新規立ち上げや、活動の支援を行い、障害者スポーツの環境整備を行います。

○障害者スポーツ指導員の養成

群馬県障害者スポーツ協会や群馬県障がい者スポーツ指導者協議会と連携し、初級指導者講習会等を行い、障害者スポーツ指導員の養成を行います。

(3)各種障害者スポーツ大会の開催

○大会開催による障害者スポーツ参画人口の拡大

群馬県障害者スポーツ大会や記録会等を開催し、障害のある人へのスポーツ活動への参加機会の拡大、選手層の裾野拡大を図ります。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和8年度末
県障害者スポーツ大会の参加人数	1,872人	1,900人

(「バリアフリーぐんま障害者プラン8」¹³から)



【全国障害者スポーツ大会選手団】

¹³ 本県の障害者施策の基本的方向を定めたもので、計画期間は令和3年度から令和8年度である。基準年度が令和3年度、目標年度は令和8年度となっている。

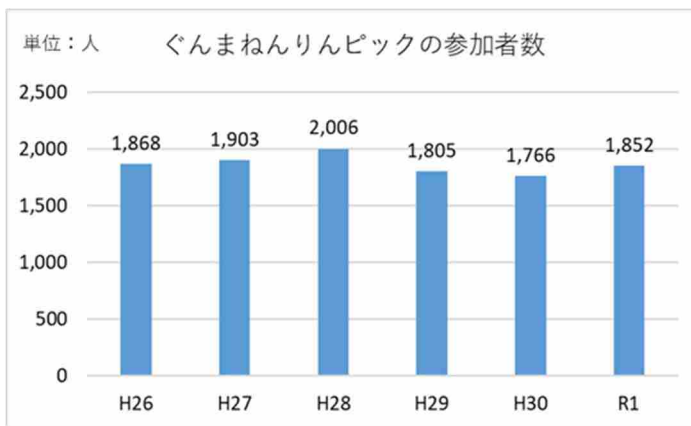
【施策】

2. 高齢者のスポーツ参加

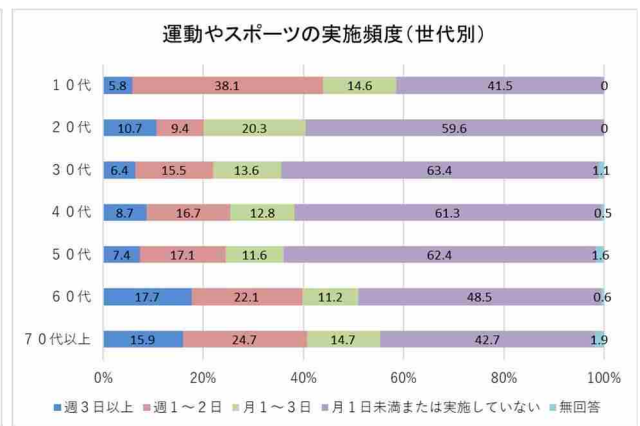
【現状と課題(P19 より再掲)】

県民へのアンケート調査では、週1日以上運動やスポーツを実施している割合は、60代で39.8%であり、70代以上で40.6%でしたが、「身体的に難しい」といった理由で運動やスポーツを実施していない割合も多く、高齢者がいつまでも元気に活躍を続けるためには、自ら健康づくりを心掛け、日常生活の中で適度な運動を実施することが必要であり、県民スポーツ祭やぐんまねりんピック等のイベントはその契機になります。

また、高齢者が身近な地域でスポーツに親しむために、総合型地域スポーツクラブの活動の充実を図り、参加を促進することが重要であり、さらには活動が充実することで、地域の活性化につながります。



資料 群馬県健康福祉部介護高齢課



資料 群馬県「県政県民意識アンケート報告書(詳細版)」
(令和元年度)

【今後の施策展開(P19、P20 より再掲)】

(1) 高齢者のスポーツ参加の促進

○各種高齢者スポーツ大会の開催及び派遣

スポーツや文化活動を通じて、高齢者の健康の保持増進と交流を図り、県民総スポーツの輪を広げるとともに、生きがいづくりを進め、ふれあいと活力ある長寿社会づくりを推進するため、ぐんまねりんピックを開催します。

また、全国健康福祉祭(ねりんピック)へ群馬県選手団を派遣し、スポーツや文化種目の交流大会を始め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者の積極的な仲間づくりや世代間交流を促進するとともに、正しい健康づくりへの理解を深めてもらうよう推進します。

○高齢者が気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション等の普及

スポーツに関する各種講座等により、高齢者が気軽に楽しみ、身体的に負担の少ないスポーツ・レクリエーションを推進するとともに、総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツ団体が自治会や老人クラブ等との連携を深め、高齢者の身近なコミュニティにおける活動が活性化するよう支援します。

(2) 日常生活のスポーツ機会の拡大(一部再掲)

○「ふるさとぐんま健康のみち」普及啓発

身近な道を楽しく歩くことにより健康につなげるために、市町村のウォーキングコースの活用方法を、県ホームページやぐんま元気アプリで公開するとともに、健康な歩き方の普及啓発を推進します。

○「ぐんま元気(GENKI)の5か条」普及啓発

県民に取り組んでほしい健康づくりの実践事項「ぐんま元気(GENKI)の5か条」の普及啓発を推進し、毎日プラス10分、意識して体を動かすことを推進します。また、元気に“動こう・歩こう”実践リーダー等による地域や職場での実践活動や健康づくりノートやぐんま元気アプリ等のツールの活用を通して、運動習慣の継続と定着を推進します。

○総合型地域スポーツクラブの活動の活性化

それぞれのライフステージや関心、体力に応じてスポーツ活動に参加できる環境を日常生活の中に創出するため、多世代・多種目・多志向という特徴を持つ総合型地域スポーツクラブの設立や会員数の増加を目標に、市町村等と連携し支援します。

○介護予防・フレイル予防の推進

介護予防関連サポーターが、各地域における高齢者が行う自主的な体操等の取組を支えるボランティアとして活躍し、高齢者の介護予防に取り組んでいます。

県では、市町村が実情に応じて実施する介護予防関連サポーターの養成や高齢者の社会参加等を通じた介護予防・フレイル予防の推進、住民主体の通いの場の充実等の取組を地域リハビリテーション支援センターや地域リハビリテーション広域支援センターと連携し支援します。

○高齢者向けのトレーニング動画配信

高齢者の生活に必要な筋力を高めるトレーニング等の介護予防に効果的な体操を紹介する動画を配信し、家庭においてもトレーニングに取り組めるよう支援します。

【数値目標(P20より再掲)】

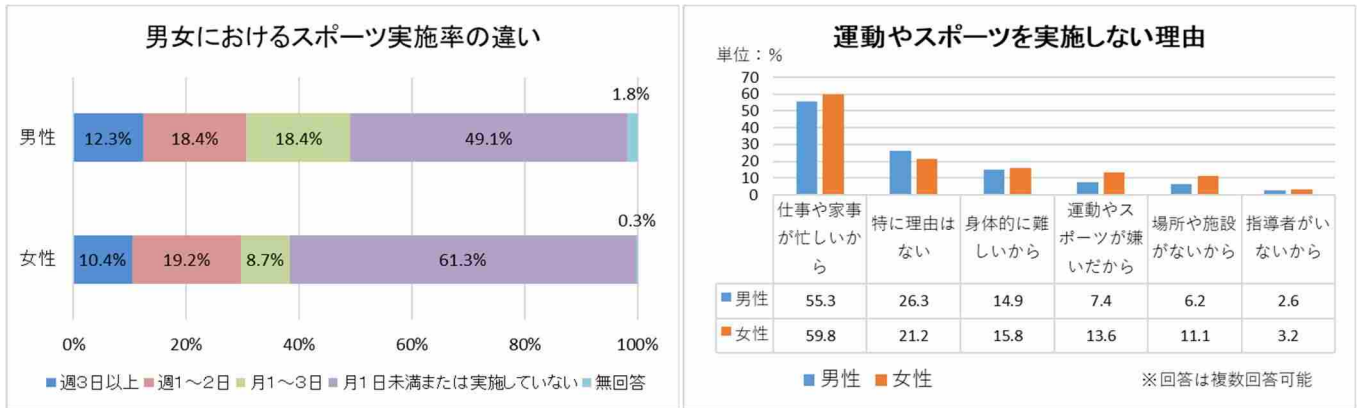
目標項目	令和元年度末	令和7年度末
高齢者(60代以上)のスポーツ実施率(週1回以上)	40.1%	67.4%

【施策】

3. ライフステージの変化や性別に関わらないスポーツ参加

【現状と課題】

県民へのアンケート調査によると、男女ともに仕事や家事などによりスポーツ参加が難しい人が多く、また、女性のスポーツ実施頻度は男性よりも低くなっています。ライフステージの変化や性別に関わらず、継続してスポーツに取り組めるよう、環境づくりを進める必要があります。



資料 群馬県「県政県民意識アンケート報告書(詳細版)」(令和元年度)

【今後の施策展開】

(1) 時間と場所にとらわれないスポーツ体験

○動画配信による運動習慣の定着及び機会の確保(再掲)

子どもから高齢者までが、家にいながらも体を動かしたり、運動する機会を確保し、また、まとまった時間が確保できない中でも気軽に運動に取り組むことができるよう、健康運動指導士や体育教諭、スポーツ指導者等と連携した動画を tsulunots 等を活用して配信します。

○気軽にできるスポーツや運動の紹介

まとまった時間や場所が確保できない中でも気軽に取り組むことができる、ウォーキングや自宅でする軽い体操等をイベントや SNS での動画配信により、普及・定着させていくとともに、従業員がスポーツをしやすい環境づくりを行っているスポーツエールカンパニーの認定を受けた企業の取組を広く紹介します。

(2) 女性のライフステージに応じたスポーツ参加の推進

○子育て世代の女性のスポーツ実施率の向上

妊娠、出産など女性特有のライフステージの変化により、20～40 代の女性のスポーツ実施率が特に低くなっています。その世代の女性が気軽にスポーツに取り組めるよう、スポーツ施設における授乳室等の環境整備を推進するとともに、短い時間でも取り組める運動や子どもと一緒にできるスポーツの普及を促進します。

(3) 女性指導者の育成

○生涯スポーツにおける指導者育成

女性指導者が増えることは、技術指導だけでなく、ライフスタイルを含む相談体制の充実につながるなど、女性が気軽にスポーツに取り組む、また継続しやすい環境づくりにつながります。そのため、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団をはじめとする地域スポーツ団体や生涯スポーツに取り組む競技団体等における女性指導者の育成を進めます。

○競技スポーツにおける指導者育成

女性指導者を必要としている競技も数多くあるため、群馬県スポーツ協会や競技団体、学校体育団体と連携して、女性指導者が指導資格を取得しやすくなるよう、資格取得支援や積極的な声かけにより、環境づくりを進めます。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
女性のスポーツ実施率(週1回以上)	29.6%	51.0%



【子どもと参加できるスポーツイベント】
(ぐんまマラソン)

Ⅲ. スポーツによる活力ある地域創生



【施策】

1. スポーツによる地域の魅力発信

【現状と課題】

本県には、サッカーのJリーグ、野球のBCリーグ、バスケットボールのBリーグをはじめとするプロリーグに所属するプロスポーツチームのほか、国内の主要リーグで活躍するスポーツチームがあります。こうした地域に根ざしたスポーツチームが活躍することはスポーツの振興だけでなく、地域の活性化につながり、ひいては群馬県の魅力の発信や郷土愛の醸成にもつながることから、チームが活躍できる環境づくりを推進する必要があります。

◎本県を拠点としている主なプロスポーツチーム等

競技名	チーム名	所属リーグ等
野球	群馬ダイヤモンドペガサス	BCリーグ
サッカー	ザスパクサツ群馬	Jリーグ
バスケットボール	群馬クレインサンダーズ	Bリーグ
3x3	MINAKAMI TOWN.EXE	3x3.EXE PREMIER(男子)
	PERITEC INTERNATIONAL OIZUMI.EXE	3x3.EXE PREMIER(女子)
サイクルロードレース	群馬グリフィン・レーシングチーム	Jプロツアー
ソフトボール	太陽誘電女子ソフトボール部	日本ソフトボールリーグ女子1部
	ビックカメラ女子ソフトボール高崎	
バレーボール	群馬銀行グリーンウイングス	Vリーグ

※ 令和2年12月1日現在

資料 群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課

【今後の施策展開】

(1) スポーツを中心とした官民共創

○「官民共創コミュニティ」によるスポーツの新たな展開

県庁内に設置されたイノベーション・ハブ¹⁴である「NETSUGEN」を活用して、スポーツと様々な分野の人材やアイデアを繋げ、スポーツを中心とした産学官民が連携した「官民共創コミュニティ」により、スポーツによる新たな地域活性化策や産業化が広く展開される環境づくりを進めます。

(2) プロスポーツチームの魅力向上

○県民へのさらなる定着の促進

スポーツチームの活動をより多くの県民に知ってもらい、応援してもらえるよう、県のホームページや各種媒体を活用した情報発信、tsulunosでの紹介動画の作成・配信を行うとともに、人権啓発や福祉施設訪問など、行政分野での事業との連携を推進します。

○プロスポーツに触れる機会の提供(再掲)

トップレベルの選手のプレーを見ることや選手と交流することは、子どものスポーツに対する関心を高め、スポーツに親しむ契機になると期待されます。このため、プロスポーツに触れる機会の少ない地域において、子どもたちを対象としたスポーツ教室を開催するなど、より多くの触れあう機会の創出を推進します。

¹⁴ 県内外の様々な分野の「人」や「アイデア」が繋がり、新たなビジネス、まちづくり活動等が醸成される場

(3) トップレベルのスポーツに触れる機会の提供

○スポーツイベントの誘致

プロスポーツを始めとしたトップレベルのスポーツイベントや大規模大会を本県で開催することは、県民のスポーツに対する関心を高めるとともに、地域での交流を活性化させることにつながります。プロ野球公式戦や各種の全国大会などのスポーツイベントの誘致に努めます。

○「みる」、「支える」機会の提供

昭和 32 年に始まった全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)は、昭和 63 年の第 32 回大会から群馬県を舞台に開催されています。

トップレベルのランナーが出場する同大会を本県で開催することは、県民のスポーツに対する関心をより高める契機となるものであり、また、テレビ中継等を通じ本県の魅力を全国に発信する機会でもあることから、円滑に開催できるよう支援していきます。

(4) スポーツを通じた国際交流の促進

○国際交流による地域活性化

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際競技大会のホストタウン登録や事前キャンプ地となることで、世界で活躍するトップアスリートとの交流を通じた地域の一体感の醸成や、地域住民がボランティアとしてスポーツイベントを支えることによる地域の活性化が期待されます。こうしたスポーツを契機とした参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を継続的に推進します。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
プロスポーツチームのホームゲームでの 1試合あたり平均観客動員数(3チーム) ¹⁵	5,377 人	7,000 人



【群馬クレインサンダース ホームゲーム】



【全日本実業団対抗駅伝競走大会 (ニューイヤー駅伝)】

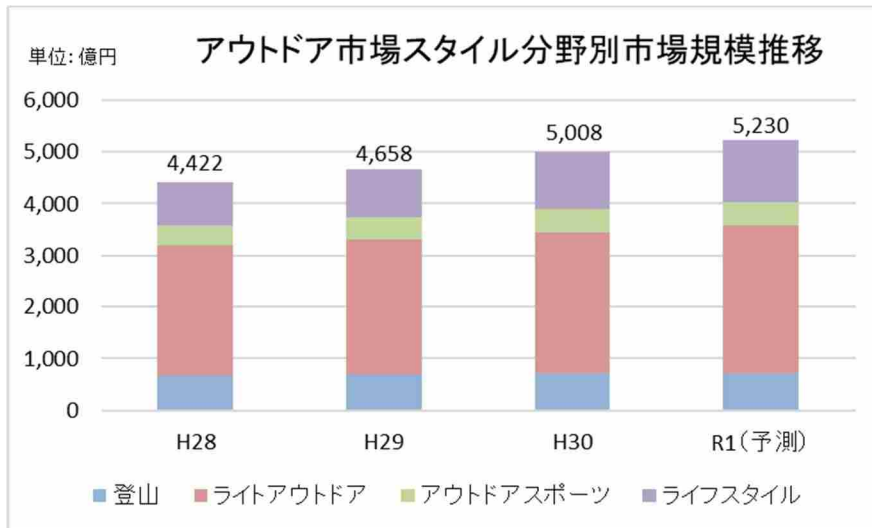
¹⁵ 群馬クレインサンダース、群馬ダイヤモンドペガサス、ザスパクサツ群馬の3チーム

【施策】

2. アウトドアスポーツによる交流人口の増大

【現状と課題】

健康志向や自然志向の拡がりの中で、アウトドアスポーツの人気は高まっており、本県の山、川、湖、雪などの豊かな自然環境は、アウトドアスポーツ需要の受け皿として大きな可能性を有しています。首都圏とのアクセスの良さを生かし、国内外からの観光客の増加、雇用の創出、健康増進、地域の活性化等を推進するため、観光やまちづくりに関する施策とスポーツを連携させた取組が求められます。



資料 矢野経済研究所「アウトドア市場に関する調査」(令和元年)

※登山:「山に登ること」を主たる目的としたレジャーに係る用品・施設・サービス

ライトアウトドア:自然環境との関わりを主たる目的としたレジャーに係る用品・施設・サービスで、主にキャンプ、ハイキング、釣り等
アウトドアスポーツ:競技スポーツとしてのアウトドア・アクティビティに係る用品・施設・サービスで、主にスポーツクライミング、
トレイルランニング等

ライフスタイル:アウトドアブランドが販売する、上記分野に含まれない用品で、主に日常生活、ビジネス、トラベル等

【今後の施策展開】

(1) 観光産業と連携したスポーツツーリズムの推進

○アウトドアスポーツの推進

ニューノーマルの下では開放的な空間の需要や価値が高まっており、三密を避けながら自然に親しめるアウトドアスポーツが注目を集めています。本県は山岳地形を活用したアウトドアスポーツを楽しめる環境にあり、ラフティング、キャニオニング、キャンプ、カヌー、スキー、スノーシュー等、多彩なアウトドアスポーツが体験できます。こうした豊かな自然を活かしたアウトドアスポーツの情報発信やワーケーション¹⁶の促進、旅行会社と連携したツアーの提案等、地域資源を活用したスポーツツーリズム¹⁷を推進します。

○アウトドアスポーツの新たな拠点づくり

本県の自然環境を活かし、魅力的な自然体験メニューの提供や各種大会の開催、合宿誘致などにより、アウトドアスポーツの拠点化を目指します。

¹⁶ 「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語で、旅先でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方。

¹⁷ スポーツの参加や観戦を目的として地域を訪れたり、地域資源とスポーツを掛け合わせた観光により交流人口の拡大や地域経済への波及などを目指す取り組み。

○山岳スポーツの振興

ぐんま県境稜線トレイルでは、中間地点の野反湖に開設した「野反湖登山案内センター」において、登山者に熊の出没情報や危険箇所等の各種注意情報を提供するとともに、高山植物・景観など季節ごとの見所情報を発信しています。また、国内最長の稜線ロングトレイルと山麓の温泉や観光を一体的に提案し、中山間地域を活性化する資源として活用を促進します。

○ランニングイベントの充実

ぐんまマラソンでは、ランナーのニーズを踏まえて、運営・サービス面の改善に取り組み、「市民参加型マラソン」として、参加するランナーやボランティアなどの満足度の向上に努めます。

また、プラスチックゴミの削減や障害があり単独走行が困難なランナーに伴走者をつけることができるようにするなど、SDGsを意識した取組を進めます。

○自転車道のPRと適切な維持管理

県内各地の特色を紹介した自転車道パンフレットやサイクリングコースガイドを配布することにより、県内のサイクリングロードを広くPRし、通勤・通学の自転車利用だけでなく、スポーツやレジャーとしての自転車の魅力を県民に伝えます。

また、舗装や防護柵、案内表示、除草等の補修・管理を適切に行うことで、サイクリングロードを安心して利用できる環境を維持していきます。

(2) スポーツコミッションの活動推進

○スポーツコミッションの活動支援

スポーツコミッションは各種大会の誘致のほか、スポーツと地域資源を組み合わせた取組を行うなど、スポーツによる地域活性化の核となる組織であることから、スポーツコミッションの設立支援やネットワークづくり等を行います。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
ぐんま県境稜線トレイル登山者数 (谷川連峰・鳥居峠)	56,719 人	65,000 人



【ぐんま県境稜線トレイル】



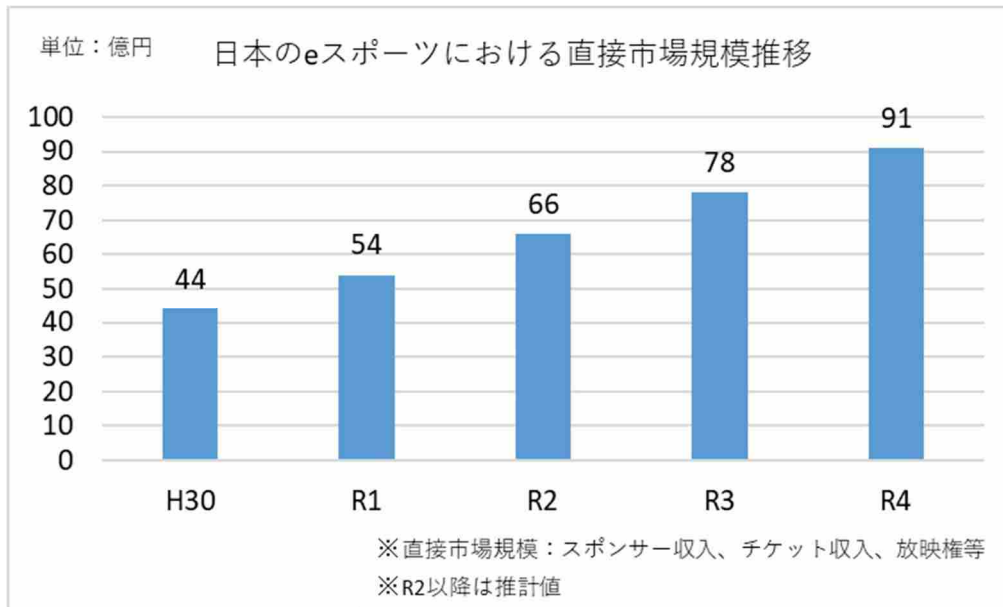
【アウトドアスポーツ (カヌー)】

【施策】

3. e スポーツ、アーバンスポーツによる地域経済の活性化

【現状と課題】

令和元年の「いきいき茨城ゆめ国体」では、文化プログラムとして全国都道府県対抗のeスポーツ¹⁸大会が初めて開催され、2022年アジア競技大会では正式種目として採用されるなど、国内外においてeスポーツへの関心が高まっています。世界的に人気があり、将来の市場成長が見込まれるeスポーツは地域経済の活性化につながる重要なコンテンツです。



資料 一般社団法人日本eスポーツ連合「日本のeスポーツの発展に向けて」(令和2年)

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では新種目として、スケートボード、3x3、BMX フリースタイル等が追加され、アーバンスポーツ¹⁹は若者を中心に注目を集めています。調査²⁰によると、国内のスケーターは年々増加している一方で、公共スケートパークが不足しているといった課題もあります。

【今後の施策展開】

(1)eスポーツの普及・拠点化

○eスポーツの普及促進

多くの県民が、年齢や性別、身体能力による差が少ないeスポーツに親しみ、楽しむとともに、競技人口やファン層の増大にもつながるよう、市町村や企業・団体等と連携し、eスポーツの普及促進に向けた取組を進めます。

また、eスポーツの推進にあたってはゲーム依存対策が不可欠なことから、関係団体・機関等と連携し、依存対策にも取り組みます。

○eスポーツの拠点化

群馬ならではの大会・イベントをはじめ、地域活性化につながる多数の大会等の誘致を推進し、eスポーツの拠点化を進めるとともに、本県の知名度向上を図ります。

¹⁸ 「エレクトロニック・スポーツ」の略で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

¹⁹ BMX、スケートボード、インラインスケート、ブレイクダンスなどの都市型スポーツ

²⁰ NPO 法人日本スケートパーク協会「国内スケートボード利用者数推計と今後の動向」(平成27年6月調査)

(2)アーバンスポーツ(3x3、BMX、スケートボード等)を活用した地域活性化

○アーバンスポーツの普及促進

若者のスポーツ参加促進や交流人口の増大を図るため、市町村や企業等と連携し、アーバンスポーツに関連する情報の発信等により普及促進を行うほか、アーバンスポーツに関連するスポーツイベントの開催支援や誘致を行います。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
e スポーツに関連する大会等開催回数(県が主催、共催、後援等するもの)	0件	4件



【U19 e スポーツ選手権の様子】



【アーバンスポーツ(インラインスケート)】

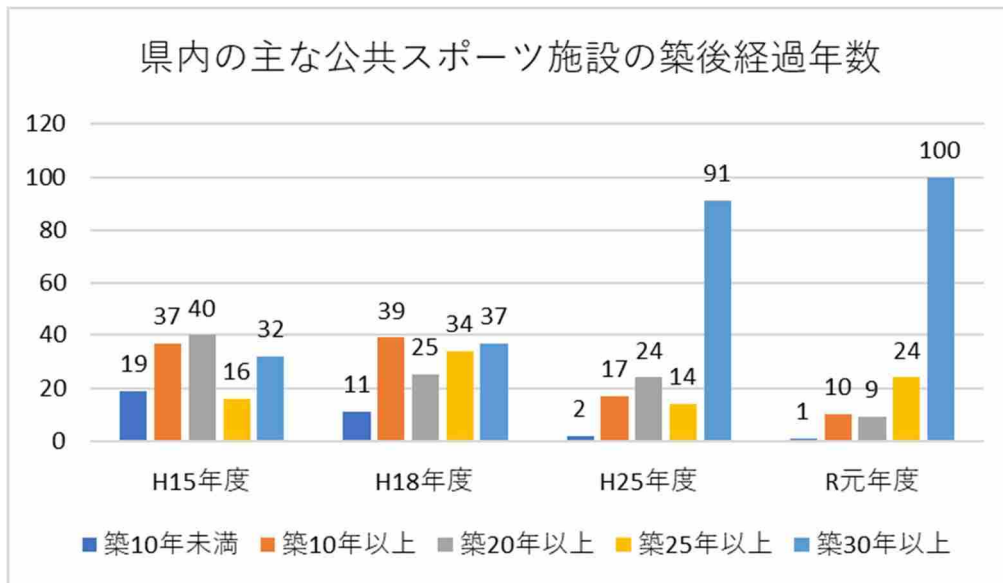
【施策】

4. スポーツ施設の有効活用

【現状と課題】

県内の主な公共スポーツ施設については、昭和 58 年開催の「あかぎ国体」に向けて整備された施設がほとんどです。

安全で良好なスポーツ活動の場を確保するため、築後年数が経過したスポーツ施設については、計画的に維持管理を行う必要があります。



資料 群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課

また、県民の様々なニーズに適切に応えるスポーツ環境の整備を進めるとともに、障害のある人や高齢者等、誰もが安心して施設を利用し、スポーツに親しむことができるよう、施設のバリアフリー化を推進する必要があります。

【今後の施策展開】

(1) 民間連携を含めたストックの有効活用

○既存施設の有効活用

既存施設について、誰もが安全に競技や観戦ができ、大規模なイベント等にも対応できるよう、定期的な点検や補修等の維持管理を行い、引き続き有効活用していきます。

○民間のノウハウの活用

施設の運営や整備にあたっては、PPP/PFI手法²¹を通じた民間ノウハウの活用を検討し、効率的かつ効果的に公共サービスを提供に努めるとともに、地域スポーツ振興のための取組を促進します。

²¹ PPPは、公民が連携して公共サービスの提供を行う手法の総称。

PFIはPPPの基本的なパターンであり、公共施設等の建設、維持管理、運営等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、同一水準のサービスをより安く、又は、同一価格でより上質のサービスを提供する手法。

(2) 競技別拠点スポーツ施設の効率的な維持管理

○市町村と連携した施設整備

「群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画」において、「競技別拠点スポーツ施設」に位置づけた施設について、市町村と連携し効率的な維持管理に努めます。

(3) 誰もが利用しやすい施設の整備

○バリアフリーに配慮した施設の整備

誰でも安全に安心して施設を利用できるよう、段差の改修やスロープの設置、多目的トイレへの改修など、バリアフリーに配慮した施設の整備を推進し、より多くの人々のスポーツ参加を促進します。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
県内社会体育施設の利用人数 ²²	9,524,052 人	現状値を維持

◎県有スポーツ施設一覧

施設名	概要
県立敷島公園	プロ野球やプロサッカー公式戦、県・全国レベルの大会の開催が可能な県内スポーツ施設の中核
県総合スポーツセンター	大規模大会や各種イベントにも対応できる本県最大のスポーツの拠点施設
伊香保リンク	県内で唯一の400m屋外リンクを有するスケート及びアイスホッケー競技の拠点施設
ライフル射撃場	県内唯一の競技ライフル射撃場であり、競技を通じて銃器の正しい取扱いの習得及び射撃技術の向上を目的とした拠点
県立ふれあいスポーツプラザ・ 県立ゆうあいピック記念温水プール	障害者のスポーツ振興と社会参加の促進を図り、障害者の福祉の向上に寄与することを目的として設置されているスポーツ施設
県馬事公苑	県内唯一の公式馬術競技が可能で、ビジター制によりいつでもだれでも手軽に乗馬ができる施設
県営ゴルフ場	県内に複数設置されており、県民が身近で気軽にゴルフを楽しめる施設
クレー射撃場	狩猟者の銃器の正しい取扱技術の習得及び射撃技術の向上を目的とした狩猟の担い手確保・育成の拠点施設



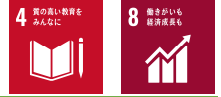
【ALSOK ぐんま総合スポーツセンター】



【上毛新聞敷島球場】

²² 県内社会体育施設のうち、体育館や球技場など、一部抽出した施設の総利用人数。

IV. スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成

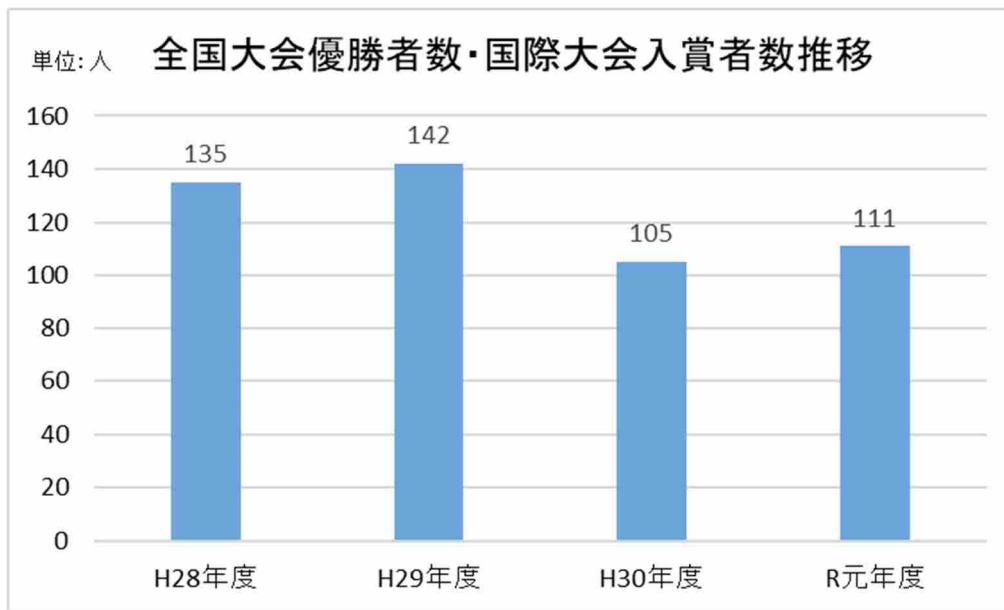


【施策】

1. アスリートの発掘・育成

【現状と課題】

本県では、群馬県スポーツ協会や各競技団体等と連携して県全体の競技力の向上を図っています。今後、全国大会やオリンピック・パラリンピックのような国際大会で本県選手が更に活躍するには、ジュニア選手を早期に発掘し、適切な育成プログラムにより組織的・計画的に指導していく必要があります。



資料 群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課

【今後の施策展開】

(1) ゴールデンエイジ²³・ジュニアの発掘・育成と強化

○スポーツを始めるきっかけづくり

子どもとその家族を対象に、様々な競技種目を体験できるイベント等を実施し、子どもの興味や適性にあった競技に取り組むきっかけをつくり、競技人口の増加や競技の裾野拡大を推進します。

○将来国際大会や全国大会で活躍できるジュニア育成

子どもの運動能力の向上が期待できるゴールデンエイジ期において、適切な育成プログラム(種目適性型²⁴・種目特化型²⁵)で組織的に指導することにより、将来国際大会や全国大会で活躍できるジュニア選手の育成、強化を図ります。

²³ 子どもの身体能力や運動能力が著しく発達する時期(5~12歳の期間)のこと。体の動かし方や技術を短時間で覚えることができる。

²⁴ 体の動かし方を身につけながら個人の適性に応じた競技種目を模索する方法。

²⁵ ある競技種目に限定して才能を見極め、育成する方法。

(2)世界に羽ばたくアスリートの育成・強化

○一貫した指導による中学・高校生の育成・強化

中学・高校生選手の期間は、ジュニアから成年選手へとつなぐ重要な育成・強化の期間であるため、一貫した指導理念のもと、重点的に強化事業を実施することで、将来全国や世界で活躍できる選手を育成します。

○全国や世界で活躍できる成年選手の育成・強化

各競技団体が実施する強化事業を支援し、年齢等に応じた事業を展開することで、より効果的なものにします。

また、オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際大会で活躍が期待される選手に対して、合宿や遠征の支援、栄養士やトレーナー等の活用を促進することでトップレベル選手の育成・強化を推進します。

○県内の大学や企業等への強化支援

全国大会において、優秀な成績を収めている大学や企業等のチームを指定し、合宿や遠征の支援をすることで重点的強化を進めます。

○活躍が期待されるアスリートの紹介

tsulunos を活用し、これから世界での活躍が期待できる選手や既に活躍している選手を紹介します。出演したアスリートが応援してもらえるような映像を配信し、県民のスポーツへの関心を高め、本県のスポーツを盛り上げます。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
全国大会優勝者数・国際大会入賞者数	111人	150人



【子どもたちのスポーツ体験教室(アーチェリー)】



【全国大会で活躍する本県選手(体操競技)】

【施策】

2. アスリートをサポートする人材・組織の育成

【現状と課題】

本県では、これまで「あかぎ国体」で活躍した選手が指導者として重要な役割を果たしてきましたが、高齢化に伴い、徐々に指導者の世代交代が必要になってきています。競技を引退した選手が指導者として活躍できる環境をつくることで、安定した指導体制を構築するとともに、指導スキルの高い指導者の養成・確保を進める必要があります。

【今後の施策展開】

(1) 指導者等の養成・確保

○質の高い指導者等の養成・確保

群馬県スポーツ協会や群馬県スポーツ指導者協議会と連携し、指導者の資質向上を図るため、コーチング方法論やスポーツ医科学、指導者としての倫理などを盛り込んだ研修会を実施します。

また、各競技団体における指導者養成を推進するために、国内で活躍している優秀な指導者を招いた研修会の開催や優秀な指導者が指導している現場での研修を実施します。

○審判員の養成・確保

県内の各競技団体においては、審判員の高齢化や新規登録者の減少傾向があり、大会等の運営が難しい場面も見られます。今後、人材の確保や計画的な資格取得を推進し、審判員の養成に努めます。

(2) 競技力向上のための大学・企業等との連携

○プロチームや大学、企業で活躍するスポーツ指導の専門家との連携

トップレベルの選手が在籍する県内プロチームや大学チーム、企業チームと連携を図り、選手育成やチームマネジメント等のノウハウを生かして、トップアスリートの育成・強化につなげます。

○本県スポーツ界における好循環の創造

本県で働きながら競技を継続し、引退後は指導者としての活躍を希望するトップアスリートとそれを支える企業をマッチングし、本県スポーツ界に好循環を生み出す「アスリート・ジョブサポートぐんま」事業を展開します。

(3) ICTによる専門的な指導を受ける機会の拡大

○ICTを活用した専門的な指導の提供

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者²⁶から、離れた場所でも競技力向上を目指すチームや選手が専門的な指導を受けられる機会を増やします。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
「アスリート・ジョブサポートぐんま」事業で採用したアスリートの人数	0人	10人(累計)

²⁶ 公益財団法人日本スポーツ協会及び加盟団体等が、公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者のこと。

【施策】

3. 競技力を向上させる環境の整備

【現状と課題】

本県において、競技団体の登録者数は年々減少しています。こうした中で、より効果的な競技力向上を推進するためには、群馬県スポーツ協会や各競技団体と連携して有望なジュニア選手の発掘・育成や小学生から成年に至るまでの一貫した強化指導等を科学的データに基づいて実践していく必要があります。

【今後の施策展開】

(1) データを活用した科学的な選手育成

○科学的データを活用した選手強化

近年の競技スポーツは、トップアスリートの競技レベルが非常に高くなっており、科学的なサポートの差が勝敗を分けます。

全国や国際大会での本県選手の活躍を実現するために、科学的サポート体制を構築し、データにもとづいたトレーニングの導入を推進します。

(2) スポーツドクター・公認スポーツ栄養士・アスレティックトレーナー等を活用したパフォーマンスの向上

○スポーツ医科学の活用

医科学サポート体制を構築するため、県内大学及びスポーツドクターやアスレティックトレーナーなどのメディカル・コンディション有資格者との連携を強化・推進します。

また、体力測定や医科学的検査等を実施するとともに、世界や国内トップレベルの科学的トレーニングの情報収集を行い、年齢や競技特性に合わせた効果的なトレーニング方法を科学的データに基づき、選手にフィードバックします。

○公認スポーツ栄養士の活用

スポーツ選手にとっての食事は、フィジカル面とメンタル面の両面に大きく影響することから、選手一人ひとりに合ったきめ細かな栄養管理を行うことで、競技力の向上が期待できます。スポーツ栄養の専門家である公認スポーツ栄養士の指導により、地域で栄養サポートができる人材を育成し、県内のスポーツ選手を支援するための体制を整備します。

【数値目標】

目標項目	令和元年度末	令和7年度末
メディカルチェック・筋力測定実施件数(総合スポーツセンター)	303 件	400 件

8 二巡目国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて

(1) 両大会の開催に向けて

本県では昭和 58 年に、「風に向かって走ろう」をスローガンに、第 38 回国民体育大会「あかぎ国体」が開催され、県民のスポーツ振興に大きな役割を果たしました。

また、「あかぎ国体」と同年に第 19 回全国身体障害者スポーツ大会「愛のあかぎ大会」が、また、平成6年に全国知的障害者スポーツ大会「ゆうあいピック群馬大会」が開催され、障害者スポーツの普及が図られてきました。

そして、令和 11 年(2029 年)に、2巡目となる「第 83 回国民スポーツ大会²⁷」と、平成 13 年に統合されてからは初めてとなる「第 28 回全国障害者スポーツ大会」が、本県で開催される予定です。

半世紀に1度の大規模大会を開催する機会となりますが、戦後間もなく始まった1巡目の国民体育大会が2巡目の終盤を迎える中、社会情勢の変化とともにスポーツ界の動向も変化してきており、大会の意義も変わりつつあります。

大会開催に向けては、本計画の基本理念の達成に向け、今の時代にあった大会のあり方を目指すこととし、本県の未来につながる、そして、県民の心に残る大会にしていきます。

(2) 開催基本構想の骨子

開催基本構想は、「新しいスタンダード」、「未来につなぐ」、「アクティブぐんま」と、それら貫く「共生社会の推進」を柱に、群馬らしい大会となるよう準備していきます。

第 83 回国民スポーツ大会と第 28 回全国障害者スポーツ大会が本県で時期を同じくして開催されるこの機会を生かし、「共生社会」づくりを推進します。

第 1 の柱『新しいスタンダード』 ～コンパクトな大会を目指し、新しいスタンダードを示す大会～

【取組項目1】 コンパクト

- ・既存の競技施設を最大限活用し、施設整備は必要最低限
- ・総合開閉会式のプログラムやアトラクションの簡素・効率化
- ・新たな社会環境下での感染症対策を踏まえた安心・安全な大会運営

【取組項目2】 連携とICT の活用

- ・県内で実施困難な競技は他県で開催
- ・他県と連携した広報活動や競技用具の共同購入
- ・輸送交通、警備等の大会運営について、民間事業者からの ICT を活用した企画提案を積極的に導入

【取組項目3】 国スポ・全スポの融合

- ・両大会の選手・携わる人の交流・相互理解を促進
- ・大会会場や情報発信のユニバーサルデザイン化の推進

²⁷ 令和6年(2024 年)に国民体育大会から国民スポーツ大会に名称変更予定

第2の柱 『未来につなぐ』 ～アスリートのチャレンジを応援し、未来につながる競技力を追求する大会～

【取組項目4】 本質の追求

- ・「ぐんまのアスリート」を育成し、一過的な選手補強に頼らず、未来につながる競技力の向上を追求
- ・競技毎に明確な目標を設定し、中長期的な視野に立って選手を育成強化

【取組項目5】 アスリートの発掘、チャレンジ、支援

- ・小・中学生の才能を発掘し、育成強化
- ・トップアスリートの県内就職・競技活動を支援
- ・指導者・審判員など競技を支える人材の育成
- ・パラアスリートへの活動支援や特別支援学校とトップアスリートとの交流など、障害者スポーツの発展を後押し

【取組項目6】 未来への投資

- ・子どもが国スポ・全スポの種目を体験する機会を提供
- ・ユニバーサルデザイン化の推進や総合型スポーツクラブの活性化など、地域スポーツ環境の充実

第3の柱 『アクティブぐんま』 ～県民の誇りを育むとともに、スポーツを通じた地域の活性化につなげる大会～

【取組項目7】 県民の誇りの醸成

- ・県民に身近な県代表、県出身アスリートの様々な活躍を紹介
- ・動画スタジオや SNS を利用して、選手や競技団体の情報発信

【取組項目8】 健康志向

- ・健康増進につながるエクササイズ等の情報をアスリートが発信
- ・生涯スポーツや軽スポーツを普及啓発し、県民の健康意識の向上

【取組項目9】 県民の繋がり

- ・デモスポーツや文化プログラムを活用した交流機会の創出
- ・地域団体・学校・企業など県内の様々な団体との連携
- ・会場案内や手話通訳など大会運営でのボランティアの活躍
- ・クリーンアップ運動などを通して県民同士のつながりを強化

【取組項目10】 地域活性化

- ・全国大会の誘致や運営支援を行い、地域経済の活性化につながる仕組みを推進
- ・地域の魅力を生かしたおもてなし
- ・デモスポーツや文化プログラムを通して、地域全体が楽しめる企画づくり



【国民体育大会（ソフトボール）】



【全国障害者スポーツ大会本県選手団】